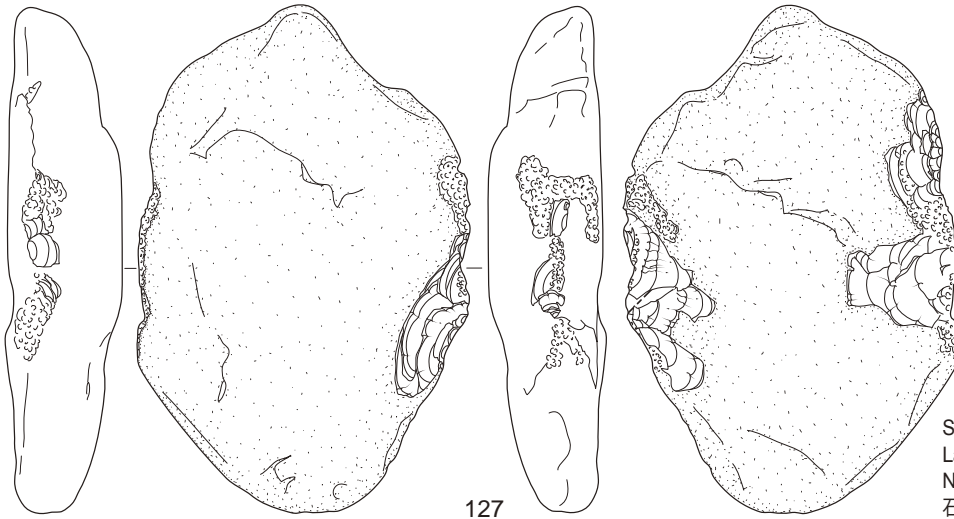


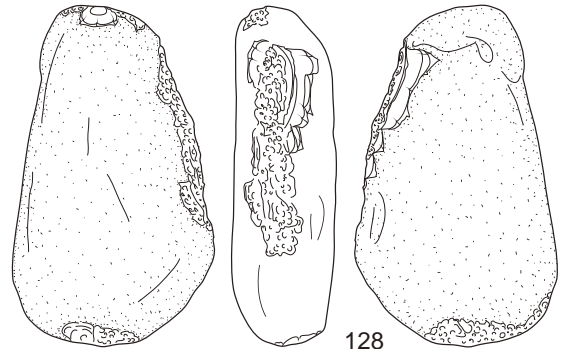
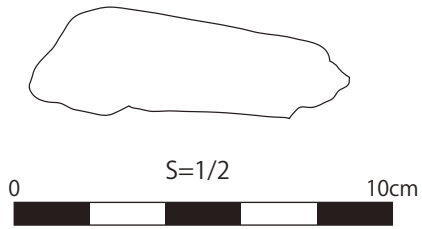
Fig.3-4-18 (続き) 出土石器

Fig.3-4-18 (continued) Stone tools



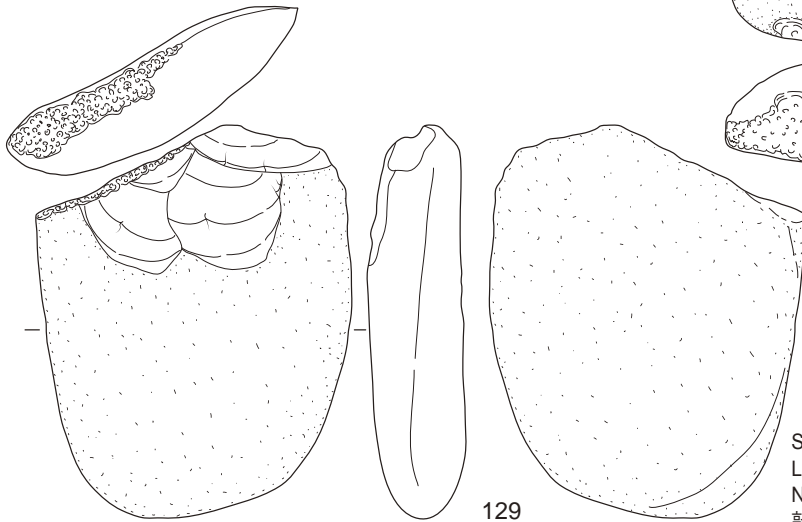
127

Sector V / M-20 Grid
Layer 2 Плaст 不明
No. 244
石錘



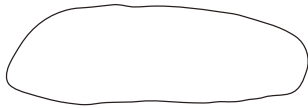
128

Sector V / П-18 Grid
Layer 36 Плaст 4
No. 326
敲石



129

Sector V / M-11 Grid
Layer 36 Плaст 3
No. 280
敲石



130

Sector IV / P-24 Grid
Layer 36 Плaст 5
No. 540-1
輕石



131

Sector IV / P-24 Grid
Layer 36 Плaст 5
No. 540-2
輕石



132

Sector IV / P-24 Grid
Layer 36 Плaст 5
No. 540-3
輕石



133

Sector IV / P-24 Grid
Layer 36 Плaст 5
No. 540-4
輕石

Fig.3-4-19 (続き) 出土石器

Fig.3-4-19 (continued) Stone tools

た 大型で幅広の木葉形尖頭器である。本遺跡で最も大型の尖頭器である。19 は器体表裏に研磨が施されている。20, 21 は左右が非対称の平面形となっている。20 は半月形と呼称可能な平面形である。22 ~ 28 は幅の狭い細身の尖頭器である。25 のような縦長の素材剥片の剥離面を大きく残すものや、26, 28 のように基部が三角形となっているものもある。29 ~ 32 は小型木葉形の4点が重なり合うようにして出土した (Fig3-3-5)。33 ~ 39 は中~小型の木葉形尖頭器である。40 ~ 43 は非常に小型で厚みも薄い。非常に小型でサイズの上では石鏃と変わらない。さらにこれらはいずれも押圧剥離によって調整されていると推定される点でも石鏃と共通している。47 ~ 49 の有茎尖頭器はいずれも上部を折れによって失っている。3点すべてが表面の摩耗が顕著である。50 は両面加工石器としたが上下を折れで失っているため、全体の形態が不明である。両面加工の搔器などであった可能性もある。本遺跡では尖頭器が143点出土しているが、そのうち両面加工が124点 (143点中の86.7%)、周辺加工が12点 (8.4%)、半両面加工が6点 (4.2%)、片面加工が1点 (0.7%) であり、ほとんどを両面加工尖頭器が占めている。出土点数に比例して 両面加工尖頭器は最も平面形とサイズのヴァリエティが豊富である。

尖頭器、有茎尖頭器に使用される石材のヴァリエティは比較的豊富だが、圧倒的に暗灰色の堆積岩が多い (Table 3-1-3)。両面加工尖頭器124点中96点 (77.4%) に、有茎尖頭器は3点すべてに同様の石材が用いられている。暗灰色の堆積岩は本遺跡の近隣に位置するオシノヴァヤレーチカ12遺跡やノヴォトロイツコエ10遺跡の使用石材の中でも大部分を占めており、周辺のオシポフカ文化期遺跡では最も一般的な石材である (橋詰ほか編 2016, 橋詰ほか編 2017)。同様の石材はゴンチャルカ1遺跡の1995年、1996年調査での出土石器にも多用され、ホルンフェルスと報告されている (Шевкомуд и Яншина 2012; Morisaki and Sato 2015)。

Fig.3-4-20 で尖頭器や石鏃の大きさについて完形もしくはほぼ完形の資料をもとに確認すると、長さ と幅の比が4:1 ~ 3:1の細身のものはほぼ両面加工尖頭器が占めていることが分かる。また、幅が2cm以下と狭い資料には、両面加工尖頭器も含まれるが、石鏃、周辺加工尖頭器、半両面加工尖頭器の全てが含まれている。両面加工尖頭器以外は幅が2cm未満のものが多くと推測できる。それぞれの形態ごとに見ていくと、両面加工尖頭器には長いものから短いものまで含まれ、その中には長さ と幅の比が4:1 ~ 1:1の間に収まるものが存在し、幅も4cm ~ 1cmのものが含まれる。このように出土点数の多さにも比例して非常に多様なサイズ、形態のものが含まれている。両面加工尖頭器の中には長さが2cm程度で幅が1cm程度の非常に小型のものが存在しており、石鏃と同程度~より小さいものが存在する。

ゴンチャルカ1遺跡からは他の遺跡に比して多数の石斧が出土している。36層以下からの出土石斧だ

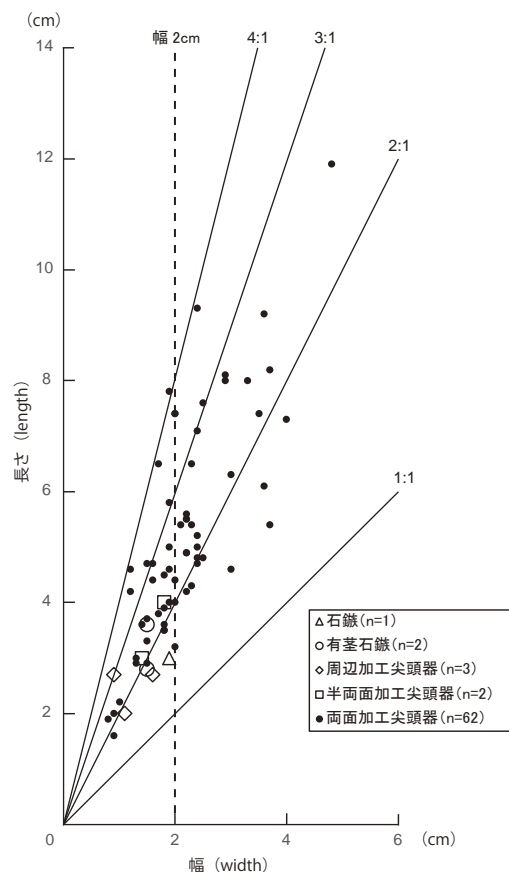


Fig.3-4-20 尖頭器および石鏃の長幅相関図 (完形およびほぼ完形資料のみ)

Fig.3-4-20 Length/width distribution of the points and arrowhead

けでも未成品を含め 15 点が出土している。103 のような比較的大型のものも存在するが、104～109 のような中～小型品が大部分を占める。打製石斧は 112～114 のような不定形なものが多い。器体が広く研磨されていたり、研磨を切る二次加工が認められるものもあり、研磨や二次加工が繰り返されるなど、再加工が頻繁に行われていた可能性がある。

77～80 は両面加工の、81～88 は半両面加工の搔器である。本遺跡出土の搔器（77～95、今回図示していない資料を含め計 34 点）は、両面加工や半両面加工、片面加工や周辺加工といった多様な二次加工、楕円形、撥形、三角形といった多様な形態を有しており、様々な特徴を持った資料が含まれる。両面加工尖頭器や細石刃関連石器と共に本遺跡における主要な石器器種と言える。これらのうち、半両面加工が 13 点（34 中に占める割合は 38.2%）で最も多く、片面加工が 10 点（29.4%）、周辺加工が 6 点（17.6%）、両面加工が 5 点（14.7%）と続く。81 は下部方向から側縁に彫器状の剥離が施されている。

本遺跡出土の剥片石器には、素材剥片の背面が多方向から生じた剥離面で構成されていたり、打面が切子状であったり、リップが発達しているなど、両面加工の石器製作に伴って生じるいわゆるポイントフレークにみられる特徴を有する剥片が素材として用いられている例が多い。このように、本遺跡での両面加工尖頭器や両面加工搔器などの両面加工の石器製作には、そのほかの剥片石器への素材供給の役割も組み込まれていたと推定できる。

3-5-1-3 細石刃関連の石器

本遺跡出土の細石刃関連資料は、遺跡の近傍で採集可能な、中～小型の珪質な石材の円～亜円礫を素材としたものが大部分を占める。60 のような両面加工の母型から剥がされた削片は 1 点のみの出土である。51 は削片剥離によって打面が作出されているが、素材の円礫の礫面を残しており、目指す細石刃核の形態に近い素材の礫が選択されていたと推定できる。54 は剥片素材の細石刃核である。51、53、55～59 は素材の円礫の礫面を残しており、いずれも比較的簡略な打面調整、下縁調整が施されたのち、細石刃剥離が行われている。52 は削片の剥離によって打面が作出された小型の細石刃核であり、下縁から比較的丁寧な調整が施されている。61 と 62 は下縁調整が施されているのと同時に、細石刃核の打面に設定可能な平坦な礫面を有しており、細石刃核の母型と評価可能な形態である。オシノヴァヤレーチカ 10 遺跡とノヴォトロイツコエ 10 遺跡では、両面加工の母型から削片を剥離して打面が作出される細石刃核と、そうした母型から剥がされた削片が一定量出土しているが、本遺跡ではこうした資料の出土に乏しく、石器の内容の顕著な違いといえることができる。

3-5-1-4 その他

97 は彫器である。橋詰ほか編（2016）で報告したオシノヴァヤレーチカ 10 遺跡、橋詰ほか編（2017）で報告したノヴォトロイツコエ 10 遺跡では彫器の出土がなく、オシボフカ文化の石器群には彫器の出土は稀である。98～100 は二次加工のある剥片である。図示していない微細剥離痕のある剥片を含め両面加工の石器製作時に生じた剥片を素材として用いたものが多数含まれていると推定できる。101 は表裏に素材の円礫の礫面を大きく残す楔形石器。102 は非常に黒味の強い黒曜石製の剥片である。120～122 は石核である。120 のような大型で比較的粗粒な石材を用いたもののほかに、121、122 のような遺跡近傍で採集可能な中～小型の珪質な石材を用いた石核もあり、中心となるのは後者である。石核の中で大型のものはごくわずかであり、剥片石器への素材供給を十分に担うことができるサイズではないことが多い。剥

片石器の使用石材やサイズからは、本遺跡出土の剥片石器への素材供給は主に両面加工の石器製作時に生じた剥片が担っていると推定でき、石核からの素材供給は限定的であったと考えられる。

そのほかに、特徴的な石器として格子状の溝が縦横に走る有溝砥石が3点出土している(117～119)。いずれも砂岩製で、117、119のように表裏に溝が入るものもある。123は棒状の礫の端部周辺を巡る細い溝がつけられた石棒である。本石器は後期新石器以降の石斧関連資料が集中して出土したC-22グリッド出土である。36層出土となっているが、オシポフカ文化に伴うか否かは慎重に検討する必要がある。124～127は石錘である。69の砂岩製の石錘は、両側縁への簡略な二次加工によって抉り部を作出しているが、もともと完成形に近い抉りのある平面形の礫が選択されており、素材の礫の変形の程度は小さい。石錘や磨石はオシノヴァレーチカ10遺跡(橋詰ほか編2016)やノヴォトロイツコエ10遺跡(橋詰ほか編2017)でも出土している。敲石は図示した128や129のような扁平なものほかに、棒状の形態のものが出土している。さらに、130～133のような軽石も出土している。加工の痕跡などは確認できていない。

以上、3次元の出土位置情報を記録して取り上げられた石器437点について事実記載をおこなった。本遺跡ではそのほかにグリッド単位で人工層位ごと一括して取り上げた剥片や礫が多く出土しているが、台帳が整備されておらず十分な整理ができなかったため、今回はこれらに対する分析はおこなっていない。

(橋詰)

3-5-2 土器・土製品

3-5-2-1 出土状況

本遺跡から出土した土器・土製品については、1cmほどの細片で磨滅しているものが多く、ある程度の大きさの破片であっても器面が磨滅しているため、文様や調整痕跡などが不明確なものが多い。さらに、接合個体も少なく、破断面が磨滅してしまっているため、接合の有無を確認することができない。こうした制約があるため正確に出土個数を割り出すことは難しいが、全出土土器・土製品数を次のように把握してカウントした。カウント方法は、各破片・細片を単純に1個とした。破片2個以上で接合するものについても1個とした。色調・胎土・出土状況から同一個体と考えられる場合でも、接合しないものについては1個としてカウントした結果、おおよそ400個の土器・土製品が本遺跡から出土している。

Fig.3-5-1には、出土した土器・土製品の個数を各層位のグリッド単位で示した。Fig. 3-5-1の①は全出土土器・土製品数の分布状況である。2001年調査では、セクターIV～VIの全調査区から土器・土製品が出土しているが、特にアイスウェッジ周辺に分布する傾向がある。②の3a層では主に後期新石器時代ヴォズネセノフカ文化や初期鉄器時代ポリツェ文化の土器や土製品などが、アイスウェッジ周辺や調査区の北側を中心に分布しているが、出土数は総じて少ない。③の36層も同様にアイスウェッジ周辺に分布の集中があるが、セクターVIの調査区南側にもまとまって出土している。36層には主に絡条体などによる条痕調整をもつ土器が多く出土する。なお、3a・6層で10個以上の出土分布があるが、その多くは細片を含む土器集中(露語表記:CK)等である。④の3r層からは、アイスウェッジの直上またはその周辺から、絡条体による回転圧痕などの調整痕跡をもつ土器が出土している。⑤の4層からは、細片が多数出土した土器集中があり、同一個体の可能性もあるが土器が磨滅しているため明確ではない。⑥のアイスウェッジからの出土は少なく、絡条体の調整痕跡をもつ土器を2点のみ確認した。

3-5-2-2 属性

本遺跡から出土した土器・土製品の多くは、器面が磨滅しているため時期や型式を特定することが難しいが、この内、器形や文様、調整がわかるものを中心に 54 点を図化した。実測図の配置についてはセクター、層位ごとにおおよそ行った。属性の内容については、Table.3-4 に記載した。

また、本遺跡出土土器の調整痕跡として出土量の多い「条痕」については、以下のとおり判断した。「条痕」は、絡条体の回転圧痕と櫛歯などのハケ状工具などによる痕跡と考えられるが、出土土器の大半が細片であり、器面も磨滅しているため、判断がつかないものについては単に「条痕」としている。

Fig. 3-5-2-1・2 は外側にやや開く深鉢の体部下側の破片である。Fig. 3-5-2-1 の表裏面は、硬質で幅広の条痕調整で仕上げられている。胎土には 3mm 程度の赤褐色円礫の砂粒やシャモット（土器の破砕物）を少量含む。器壁の厚さは 8.5 mm となる。Fig. 3-5-2-2 の器面の内外面は、やや磨滅しているため調整が明瞭ではないが、外面には右上がりの斜方向の条痕調整で、内面は左上がりの斜方向の条痕調整である。いずれも硬質な工具で条痕調整されている。胎土には砂粒を含まないが、シャモットを少量含む。器壁の厚さは 5.7 mm となる。

Fig. 3-5-2-3・4 はやや直立する深鉢の体部破片である。Fig. 3-5-2-3 は、外面は磨滅しているため調整は明瞭でないが、おそらく横方向の条痕調整が施されていると考えられる。内面は外面に比べて明確であり、横方向に条痕調整をしている。胎土にはシャモットが用いられている。Fig. 3-5-2-4 は内外面が横方向と斜方向に条痕調整されている。

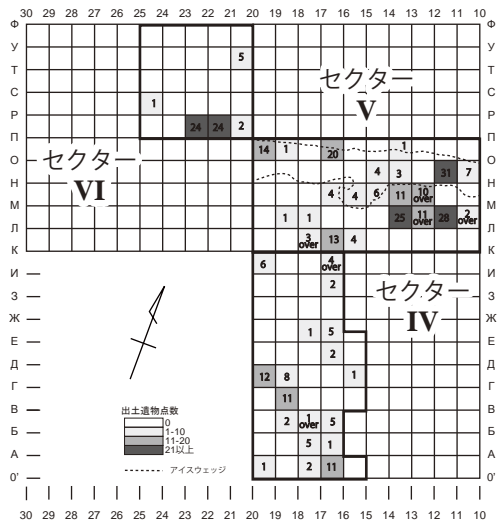
Fig. 3-5-2-5 は外側に直立する口縁部破片である。やや丸みのある口縁端部をもつ深鉢である。口縁直下には焼成前の穿孔が施されている。外面はナデによる調整で、粗く平滑に仕上げられている。内面は横方向に条痕調整されている。胎土には、1～2mm の褐色角礫の砂粒を少量含んでいる。また、オシポフカ文化の土器の特徴である繊維痕跡も明瞭に観察することができる。

Fig. 3-5-2-6 は土器集中 1 (CK 1) である。数個体内、口縁付近と体部の破片 2 個を抽出した。この 2 個の破片は、接合はしないが、調整、胎土、色調などから同一個体と考えられる。口縁端部は剥落などにより残されていないが、口縁は内側に傾き、体部で緩く屈曲する深鉢である。口縁直下付近には焼成前の穿孔と考えられる痕跡の一部がある。外面は、口縁付近では磨滅しているため不鮮明であるが、体部の屈曲付近には横方向に細かな条痕調整があり、絡条体による回転圧痕であると考えられる。体部屈曲部より下側には条痕調整はなく、ナデ調整によって器面を平滑に仕上げている。内面は、口縁上部付近で斜方向となるが、下部では基本的に横方向の条痕調整である。胎土には 5mm ほどの褐色角礫などの砂粒をやや多く含む。

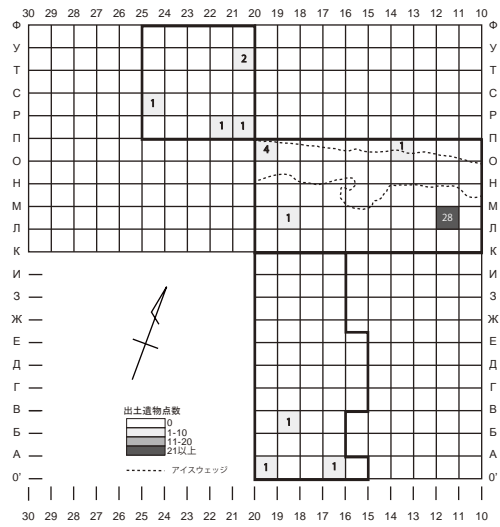
Fig. 3-5-2-7 は器壁の厚さ約 10mm の体部破片である。外面には、やや硬質の工具によって縦方向の条痕調整が施される。絡条体による条痕調整の可能性もある。内面は磨滅しているため調整は不明である。

Fig. 3-5-2-8 は、土器集中 3 (CK 3) であり、6 個の破片が確認されており、胎土や調整痕跡から同一個体の深鉢と考えられる。図化した口縁部は、やや外側に開いて直立し、口縁端部直下には直径 2mm の焼成前の穿孔をもつ。口縁端部は丸みをもつが、端部縁辺には緩やかな稜が残る。外面は磨滅しているため調整等については不明であり、やや器表面に凹凸が残る。内面は、絡条体の回転圧痕による調整を横方向に施しているため、表面は凹凸が少なく平滑となる。なお、土器集中 3 では、Fig. 3-5-2-8 以外にも円孔をもつ口縁部付近の破片が 1 個出土している。

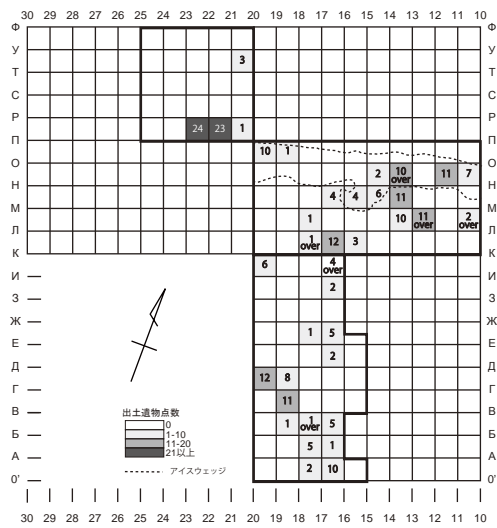
Fig. 3-5-2-9 は内面が磨滅しているため調整が不明である。外面は、絡条体の回転圧痕と考えられる縦方向の条痕調整が施されている。Fig. 3-5-2-10 は、外面に縦方向の条痕調整が施される。内面は磨滅してい



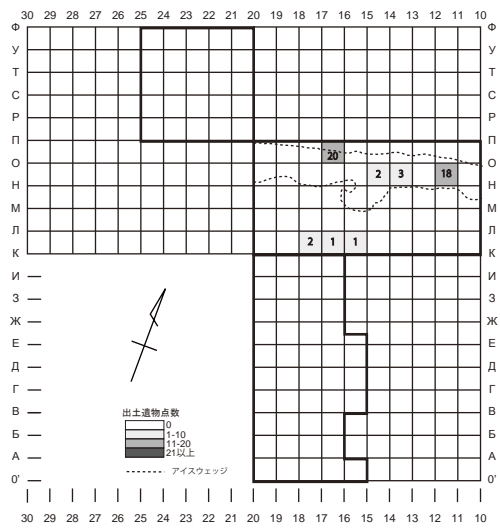
①出土土器の平面分布
Distribution of all pottery



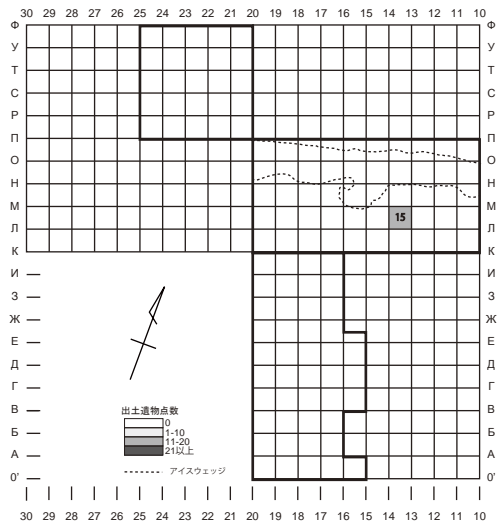
②3a層出土土器の平面分布
Distribution of pottery on layer 3a



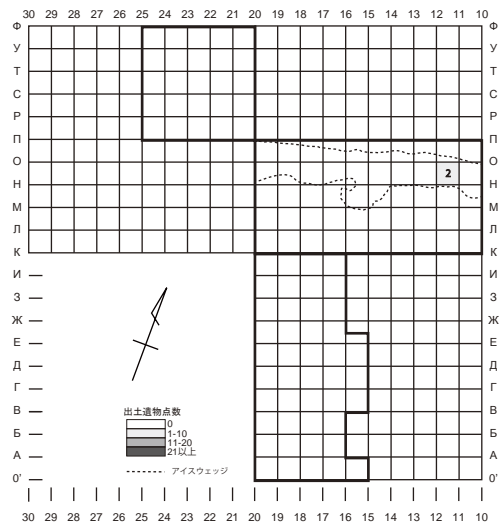
③3b層出土土器の平面分布
Distribution of pottery on layer 3b



④3r層出土土器の平面分布
Distribution of pottery on layer 3r



⑤4層出土土器の平面分布
Distribution of pottery on layer 4



⑥・アイスウェッジ層出土土器の平面分布
Distribution of pottery in icewedge

Fig.3-5-1 出土土器分布図

Fig.3-5-1 Distributions of pottery

るため調整が不明である。Fig. 3-5-2-11 は、内外面ともに磨滅しているが、外面には右上がりの斜方向の条痕による調整痕跡がある。なお、Fig. 3-5-2-9～11 は胎土に砂粒を含まない。Fig. 3-5-2-12 は、軟質の調整工具により横方向の条痕によって器面が調整されている。内面は磨滅している。Fig. 3-5-2-13 は内外面ともに磨滅しているが、絡条体による縦方向の回転圧痕により器面調整が施され、平滑に仕上げられている。

Fig. 3-5-2-14 はやや外側に開く口縁部である。器壁の厚さは4.4cmであり、小型の深鉢と考えられる。口縁部断面は、口縁端部の外面側を丁寧に面取りしていることから、三角形になる。破断面の剥落状況から、粘土紐を積み上げて口縁端部を製作している。内外面は磨滅しているため不明であるが、外面に櫛または縄による痕跡が残されているが明確ではないため判断できない。胎土は砂粒を含まない。

Fig. 3-5-2-15 は上部に緩やかな屈曲をもつ体部破片である。屈曲部付近には焼成後の穿孔が施されている。内外面には、縦方向に硬質で幅広のハケ状の条痕調整が施されているため、器面は平滑である。

Fig. 3-5-2-16 は体部に隆帯文を2条もつ深鉢である。隆帯は部分的に剥落しているが、幅5mmの細い粘土紐を直線状に貼付け、その上下縁は貼付け時のくぼみが残る。隆帯上には、5mm間隔でヘラ状の工具を正面左上方から押し当て、右方向に押し倒すことでキザミを施している。外面はミガキにより仕上げられているが、下段隆帯よりも下方の器面は部分的に剥落している。また、内面は全面磨滅しているため、調整は不明である。器壁の厚さは8.3mmとなる。隆帯の間隔は約15mmである。

Fig. 3-5-2-17 は、内外面に絡条体によると考えられる横方向の条痕が残る口縁部の破片である。口縁端部上面はナデによる調整で平坦になる。

Fig. 3-5-2-18 は、IVセクターで出土した土器集中1(CK1)である。内外面ともに磨滅しているが、外面は絡条体と考えられる回転圧痕によって調整されている。内面下部には接合時のユビオサエが残る。

Fig. 3-5-2-19～21 は底部破片である。Fig. 3-5-2-19 は、内外面にナデによる調整で器面が平滑にされている。Fig. 3-5-2-20 は、内外面ともに丁寧にナデ調整されているため、平滑に仕上げられている。胎土は白色角礫がやや多く含む。Fig. 3-5-2-21 は直径4cmの底部破片である。側面の立ち上がりは緩やかに外側に開く。内面は条痕で調整されている。

Fig. 3-5-3-1～2 はヴォズネセノフカ文化のマラヤガバンタイプの深鉢である。胎土の混和材には砂粒を含まず、貝殻粉末を含む特徴がある。Fig. 3-5-3-1 は体部が丸みをもつ深鉢である。頸部には半截竹管状の工具による半円形の押捺文をもち、その直下には垂直方向のジグザグ沈線文が施文されている。Fig. 3-5-3-2 は、器面の内外が磨滅しているため文様や調整は不明確であるが、土器の断面形状からマラヤガバンタイプに相当すると考えられる。口縁部付近には、炭化物の付着があり、破片断面にも付着が及んでいる。

Fig. 3-5-3-3～6 は古鉄器時代ポリツェ文化の土器破片であり、Fig. 3-5-3-3・4 はVセクターで出土した土器集中1(CK1)、Fig. 3-5-3-5 は土器集中2(CK2)である。Fig. 3-5-3-3 は甕形土器の口縁部破片である。口縁端部の断面形は、三角形となり、外面が肥厚する。口縁部の肥厚帯上とその直下には櫛歯文が施文されていると考えられるが、器面が磨滅しているため明確ではない。内面調整も同様に磨滅しているため不明確であるが、ナデによって器面を平滑にしていると考えられる。Fig. 3-5-3-4 は甕形土器の体部である。櫛歯による条線文がある。Fig. 3-5-3-5 は直径8cmとなる底部である。底部側面の下部には黒斑がある。内外面は粗いナデによる調整が施されているが、器面にはやや凹凸が残る。Fig. 3-5-3-6 はユビツマミにより貼付けた隆帯をもつ口縁部破片である。頸部には内面に稜が明瞭に残っている。

Fig. 3-5-3-7 は、体部に二条の隆帯をもつ深鉢である。隆帯の間隔は約20mmである。隆帯は大部分が剥落している。器面は内外面ともに磨滅しているため、調整などは不明である。器壁の厚さは8.2mmであり、

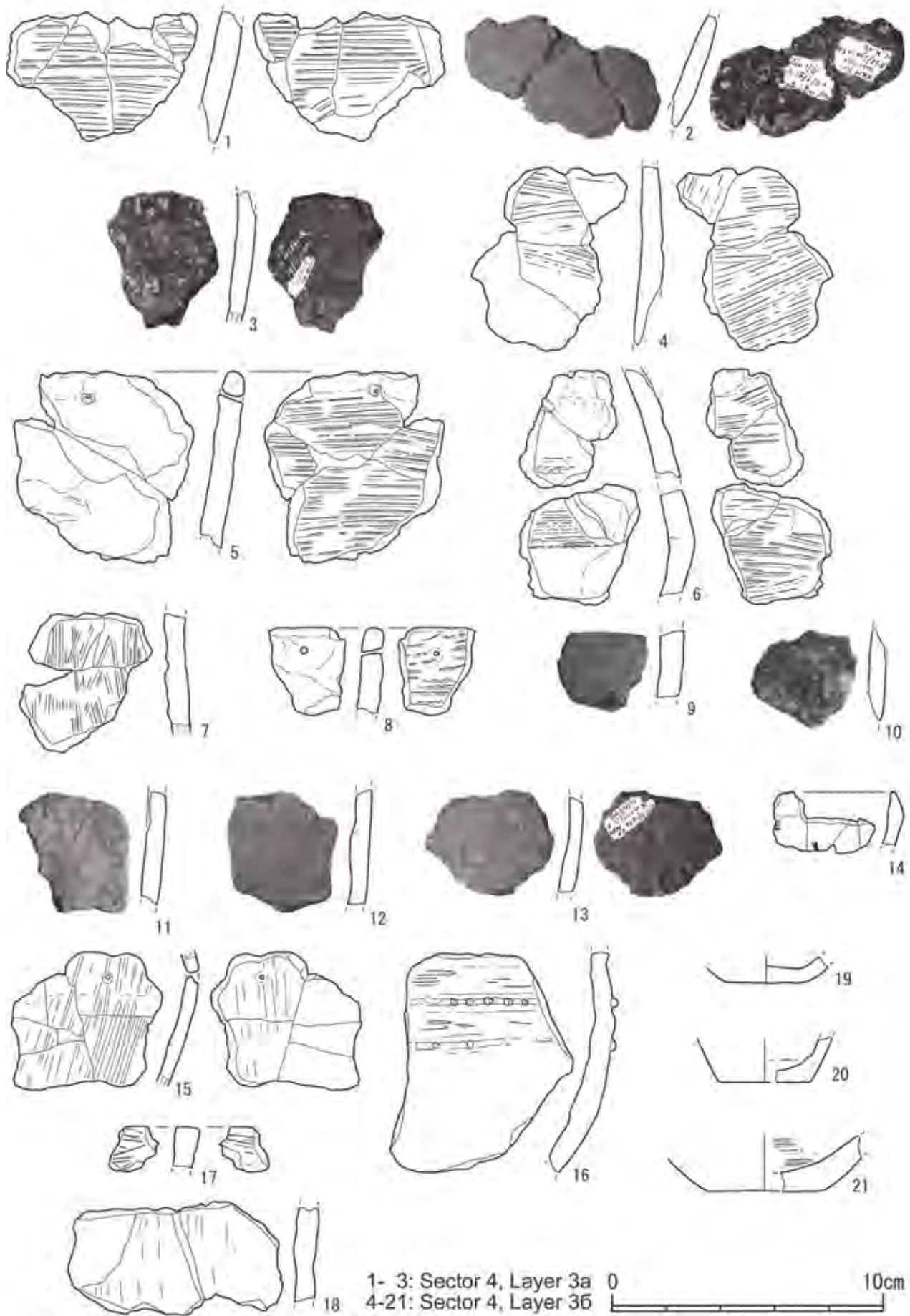


Fig.3-5-2 出土土器

Fig.3-5-2 Potteries

やや厚めとなる。胎土には、褐色の角礫や雲母片などの砂粒を多く含む。

Fig. 3-5-3-8 は、深鉢の体部破片として実測を行ったが、破片上部の焼成後穿孔の傾きなどを考慮すると、器壁の傾きはより鈍角となり、皿状になる可能性もある。内外面が被熱を受けて黒色化しており、外面にごく微量であるが煤が付着している。外面には縦方向に絡条体と考えられる回転圧痕がある。器面の被熱による黒色化で調整パターンを把握することは困難である。内面調整は硬質のハケ状工具によりやや左上がりから横方向の条痕調整されている。

Fig. 3-5-3-9 は、深鉢の底部側面付近の破片と考えられる。外面に縦方向の絡条体による回転圧痕により器面が調整されている。内面は磨滅しているが、器面の凹凸は少ない。

Fig. 3-5-3-10～12 は、ジグザグ櫛歯文が施文されている深鉢の破片である。Fig. 3-5-3-10 は、口縁端部の残りが悪いが、端部を軽くつまんで作出した弱い波状口縁になる可能性がある。口縁端部の直下には、外面側から焼成後穿孔を行う。外面には横方向に展開するジグザグ櫛歯文が施文されている。内面は、絡条体による回転圧痕による調整で器面が平滑にされている。Fig. 3-5-3-11 は深鉢上部の体部破片である。縦方向のジグザグ櫛歯文が施文されている。内面は横方向の条痕調整であるが、絡条体の回転圧痕の可能性もある。Fig. 3-5-3-12 は体部の破片である。内外面ともに磨滅しているが、水平状のジグザグ櫛歯文となる。Fig. 3-5-3-11・12 には胎土には砂粒は含まない。

Fig. 3-5-3-13 は、端部がやや磨滅や剥落をしているが、口縁部破片であると考えられる。外面に絡条体による回転圧痕で器面が調整されている。

Fig. 3-5-3-14 は無文の体部破片である。外面はナデにより器面が平滑にされているが、内面は凹凸が残り、内面上部には成形時のユビオサエ痕跡がある。

Fig. 3-5-3-15 は体部の破片である。内外面の大部分が磨滅しているため、明瞭ではないが、長楕円状の小粒の押捺文が数条ある。ロッキング状に移動させて施文している可能性がある。外面は丁寧に調整されて平滑であるが、内面は磨滅しているため凹凸が残るが、器面は平滑に整えられている。

Fig. 3-5-3-17 は、小破片であるが、外面の隆帯文上に浅い円形押捺文をもつ。隆帯の直上には焼成後の穿孔が施されている。内面はナデによって調整されている。器壁は5mmで薄く、小型の鉢形土器と考えられる。

Fig. 3-5-3-18 は直立する口縁部の破片である。口縁端部直下には、円形状に押捺された文様(直径6.5mm)があり、わずかに条と節を確認できることから押圧縄文と考えられる。内外面には斜方向の条痕の調整痕跡が残されている。内面の大部分は磨滅しているが、成形時の凹凸がやや残る。胎土には砂粒を含んでいない。

Fig. 3-5-3-19 は、外面に縦方向の絡条体による回転圧痕(約1.7cm幅)で器面が調整されている。内面は磨滅しているため、不明である。

Fig. 3-5-3-20 は体部破片である。外面には絡条体による回転圧痕で、上部は縦方向、下部は横方向に調整されている。部分的に炭化物が付着している。内面は磨滅している。

Fig. 3-5-3-21 は器壁10mmの厚みをもつ体部破片である。外面には方形状または三角形状の刺突状の押捺がある。押捺単位の間隔は広いが、櫛歯文の可能性もある。胎土には、5mm以下の赤褐色～橙色の角礫砂粒を多く含む。内外面ともにナデによって調整されている。内面の器面はやや凹凸が残っている。

Fig. 3-5-3-22 は、砂粒を含まない体部破片である。内外面に絡条体による回転圧痕と考えられる条痕によって器面調整されている。外面は基本的に横方向、内面は上部が斜行、下部が横方向の調整である。

Fig. 3-5-3-23・24 は、アイスウェッジ中から出土した土器集中である。接合はしないが、調整や胎土から判断して同一個体であると考えられる。Fig. 3-5-3-23 は、体部で「く」字状に屈曲し、口縁部は内側に向かっ

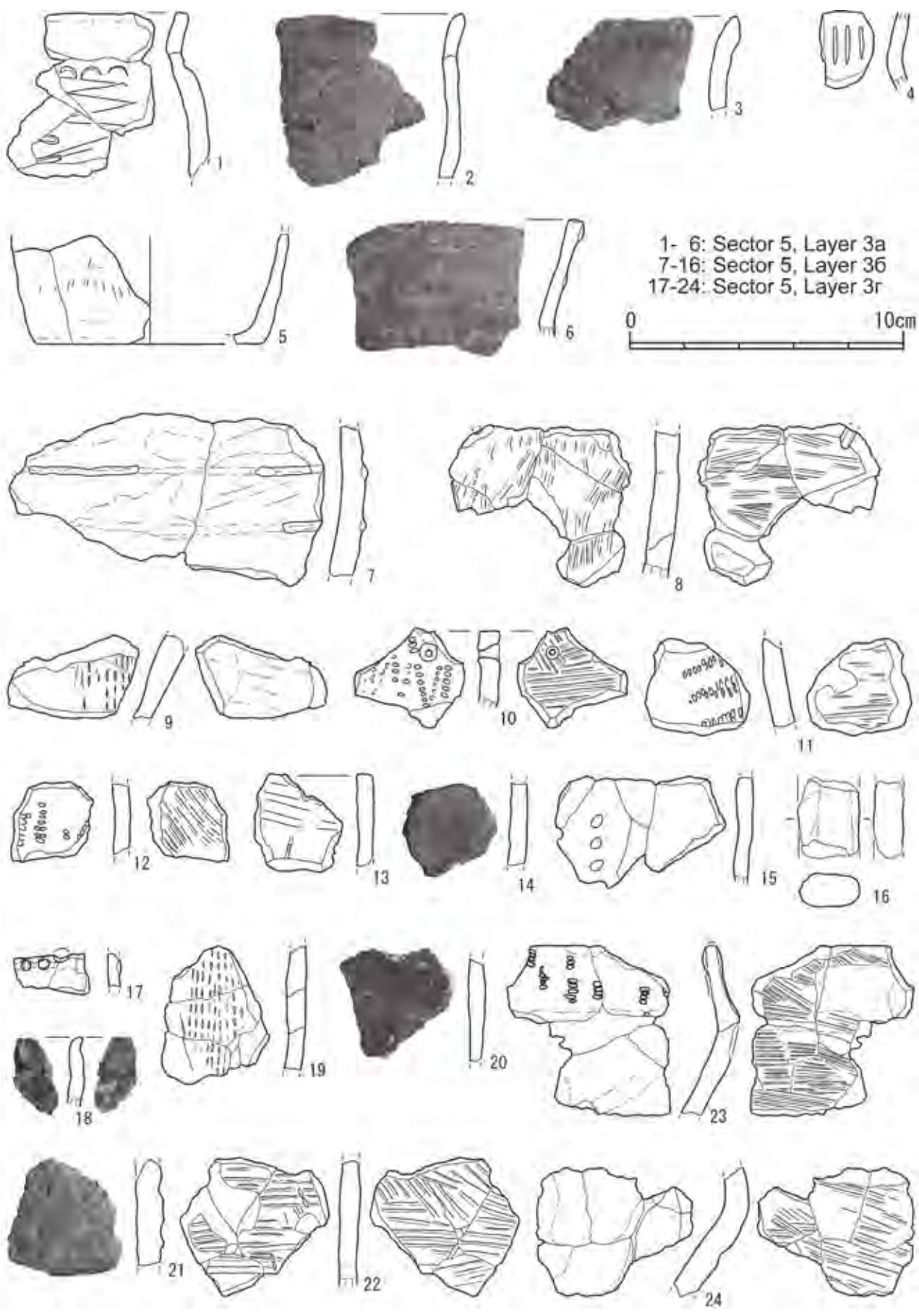


Fig.3-5-3 (続き) 出土土器

Fig.3-5-3 (continued) Potteries

て直立する。口縁部を内側に直立させるために、内外面の表面に化粧土が施されている。そのため口縁端部は剥落していることから、擬口縁状になる。口縁外面には、縦方向に絡条体と考えらえる側面圧痕がある。体部の屈曲部は大きく剥落している。体部屈曲部より下部の外面は、器面に凹凸が残されている。この痕跡は、条痕調整などの可能性もあるが、器面の磨滅が激しいため判断することは難しい。口縁部内面は斜方向、体部は横方向に絡条体による回転圧痕で器面調整されている。Fig. 3-5-3-24の内外面の調整もFig. 3-5-3-23と同様である。

Fig. 3-5-4-3～6はVIセクターの土器集中1(CK.1)である。Fig. 3-5-4-3は、接合部で弱く内側に屈曲する体部破片である。外面には2条の絡条体による側面圧痕が確認できる。外面下部には絡条体による条痕調整が横方向・斜方向に、内面には斜方向に条痕調整されている。Fig. 3-5-4-4・5は外面に絡条体の側面圧痕により調整されている。内面は磨滅している。Fig. 3-5-4-4は、3条の絡条体による側面圧痕があり、Fig. 3-5-4-5は、外面に1条の絡条体による側面圧痕があり、胎土には1～3mmの白～褐色角礫の砂粒を含み、繊維痕跡もよく残る。Fig. 3-5-4-6は、器高5.5cm、口径15.6cmで口縁部が外側に直立する鉢である。残存率約1/4程度である。器面は磨滅しているが、内外面に輪積み成形時の四指痕跡がよく残されている。成形は円盤状の底面を製作したのちに、3段程度の粘土紐を積み上げていると考えられる。底部側面の外面には、絡条体による側面圧痕か楕状の工具調整の痕跡がわずかに残される。

Fig. 3-5-4-7は外面に絡条体の回転圧痕により調整されている。内面は磨滅している。

Fig. 3-5-4-8は外面は磨滅し、内面はナデ調整で器面が平滑にされている。

Fig. 3-5-4-9は体部破片であり、やや丸みを帯びた屈曲をもつ。内外面ともに磨滅しているため、文様や調整については不鮮明である。胎土には1～3mmの白～褐色角礫の砂粒を含む。

Fig. 3-5-3-16, Fig. 3-5-4-1・2は、後期新石器時代ヴォズネセノフカ文化の棒状土製品の破片である。幅約2.2cm、厚さ1.2cmとなる。四隅は緩やかな稜をもち、各面は平滑に仕上げられている。

3-5-2-3 分類

土器の属性をもとに三群に分類した。1群は更新世終末から完新世初頭に相当するオシポフカ文化、2群は後期新石器時代ヴォズネセノフカ文化、3群は古鉄器時代ポリツェ文化である。

1群：更新世終末期から完新世初頭オシポフカ文化

本群は更新世終末から完新世初頭のオシポフカ文化の土器群である。以下では、文様をもとに二分類した。なお、絡条体や楕状工具による器面調整のみの土器については、小破片の体部などが多く、文様の有無を把握できないため、ここでは取り扱わない。

1類：円孔文 (Fig. 3-5-2-5, Fig. 3-5-2-6, Fig. 3-5-2-8)

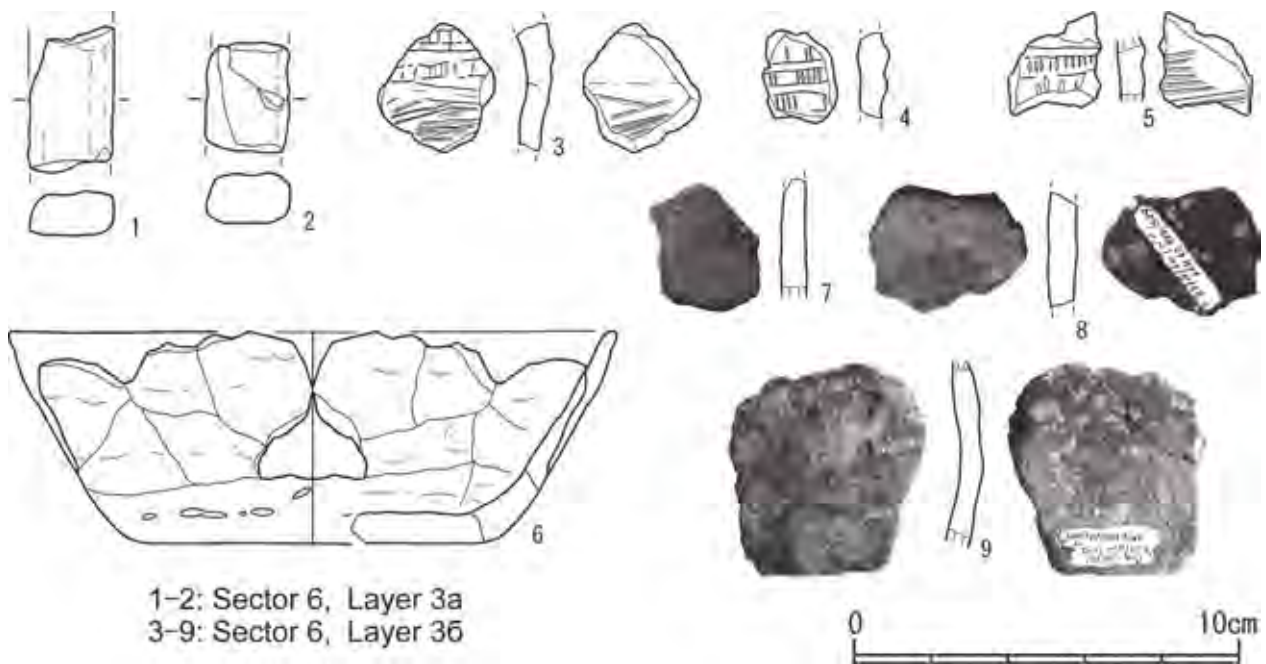
直径2mmの焼成前の穿孔をもつ。やや丸みのある口縁端部をもつ深鉢であり、内面は横方向に条痕調整される。外面はナデ調整で器面を仕上げているものと考えられる。口縁部の形態から二分類した。

1a類：口縁部が外側に開くもの (Fig. 3-5-2-5, Fig. 3-5-2-8)。器壁の厚さは約8mmであり、Fig. 3-5-2-5は胎土混和材に繊維を多く含む。

1b類：口縁部が内側に傾くもの (Fig. 3-5-2-6)。口縁が傾き、体部で緩く屈曲する深鉢である。

2類：隆帯文 (Fig. 3-5-2-16, Fig. 3-5-3-7, Fig. 3-5-3-17)

本類は全体的に出土量が少なく、器面は磨滅して砂粒が浮き出ているため、器面調整の痕跡を確認することが難しい。しかし、器面には凹凸がないことから、ミガキ調整または化粧土などによって表面を丁寧にナデつけて仕上げているものと考えられる。本調査では、体部のみが出土している。隆帯のバリエーションからさらに三分類した。



1-2: Sector 6, Layer 3a
3-9: Sector 6, Layer 3b

Fig.3-5-4 (続き) 出土土器
Fig.3-5-4 (continued) Potteries

2a 類: 隆帯のみをもつもの (Fig. 3-5-3-7). 隆帯は細い粘土紐を器面の調整後に貼りつけている. 隆帯の間隔は約 20mm である. 器壁の厚さが 8mm 程度となる深鉢である. 胎土には砂粒を多く含む.

2b 類: 隆帯上にキザミをもつもの (Fig. 3-5-2-16). 4a 類同様に, 隆帯は細い粘土紐を張り付けている. 隆帯の間隔は約 15mm である. 器壁 8mm の厚さをもつ深鉢であり, 胎土には砂粒を多く含む.

2c 類: 隆帯上に円形押捺文をもつもの (Fig. 3-5-3-17). 平らで薄い隆帯を貼付, 隆帯上には浅い円形押捺文が施される. 隆帯の直上には焼成後の穿孔が施されている. 小型の深鉢であり, 器壁の厚さは 4mm であり, 胎土には砂粒をやや多く含む.

3 類: 押圧縄文をもつもの (Fig. 3-5-3-18).

本類は, 口縁端部直下に円形状に押捺された押圧縄文 (直径 6.5mm) をもつものである. 細片であるため全容を把握できないが, おそらく縄を点状に押捺しているものと考えられる. 内外面には斜方向の条痕の調整痕跡が残されている. 本類については, アムール下流域で類例がないため, 資料の蓄積を待って将来的に再考する必要がある. なお, Fig. 3-5-3-15 も本類に含まれるかもしれないが, 外面が磨滅していることから本類からは除外した.

2 群: 後期新石器時代ヴォズネセノフカ文化

本群は, ヴォズネセノフカ文化後半期のマラヤガバンタイプである (Fig. 3-5-3-1 ~ 2). 本群の土器は出土量が総じて少ない. 本群の土器は, 胎土の混和材には砂粒を含まず, 貝殻粉末を含む特徴をもつ. Fig. 3-5-3-1 は, 丸みのある体部にジグザグ沈線文をもち, その直上には半円形の押捺文が施文されている. アムール河口部周辺のカリチョーム 2 遺跡から出土したヴォズネセノフカ文化の土器には, 口縁直下や肩部に円形または半円形の押捺文が施文される類例がある (Шевкомуд, 2004).

3 群: 古鉄器時代ポリツェ文化

本群の土器には Fig. 3-5-3-3・4・6) がある. 口縁端部の肥厚帯をもつもの (Fig. 3-5-3-3) や口縁部外面に貼付隆帯文をもつもの (Fig. 3-5-3-6) などがある.

(内田)

Table.3-3-1 ゴンチャルカ1遺跡出土石器属性表

Table.3-3-1 Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плacr	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
2	IV	E-16	2	不明	1	石鏃	玉髓 (透明, やや 橙色帯びる)	完形	3.0	1.9	0.3	0.9	両面加工, 凹基無茎, 表裏に先端から発生した彫器状剥離痕あり. 彫器状剥離痕への二次加工もあり.
	IV	E-17	2	不明	2	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.1	1.9	0.6	4.5	基部がすぼまる有茎状の形態. 上半部を横方向からの大きな剥離で欠損(製作時の事故か?). 表面摩耗.
	IV	3-17	2	不明	3	尖頭器 (周辺加工)	無斑晶質安山岩	下半欠	4.3	3.1	0.6	7.8	素材剥片横位に使用. 折れ(C-①スナップ)により下半欠.
	IV	E-20	2	不明	5	石核	碧玉 (赤)	完形	4.7	3.1	2.1	31.2	亜円礫素材. 両極技法使用か. 不定形. 近傍河床で採集可能な石材.
122	IV	A-20	2	不明	6	石核	頁岩 (黄褐色緻密)	完形	2.9	2.3	6.1	39.9	細長い亜円礫素材. 近傍河床で採集可能な石材.
97	IV	K-17	3a	1	7	彫器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.4	2.5	0.9	14.1	素材剥片縦位に使用. 素材は片面加工の尖頭器状. 周辺の加工はやや鈍角. 側縁と器体を横方向に分断するような彫器状剥離が施されている.
37	IV	И-17	3a	1	8	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.7	1.5	0.6	3.8	小形で細身. 押圧剥離使用.
	IV	И-18	3a	1	9	細石刃	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.6	0.7	0.4	0.5	腹面剥離方向と平行する剥離面が二枚背面にも残されている.
	IV	И-18	3a	1	10	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	左下部欠	4.8	3.0	1.4	18.8	素材剥片横位に使用. 表面の加工は器体全体に及ぶ. 裏面は素材剥片の腹面を大きく残し, 下部を中心に施されている. 裏面右方向の剥離(剥離事故?)により器形を損なっている.
58	IV	И-18	3a	1	11	細石刃核	珪質頁岩	完形	3.0	2.0	2.3	13.2	近傍の河床で採集可能な亜円礫が素材. 細石刃剥離面は不規則, 非連続的. 下縁調整あり. 珪質で良質な石材. 非削片系.
	IV	Ж-18	3a	1	12	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	2.9	3.0	1.1	11.2	素材剥片縦位に使用. 裏面の加工はごく一部で, ほぼ片面加工. 非常に鈍角な二次加工が施されている. ラウンドスクレイパー状の平面形.
83	IV	K-20	3a	1	13	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.7	3.1	1.3	21.5	素材剥片横位に使用. 三角形の平面形. 裏面の加工は両側縁から限定的に施されており, 素材剥片腹面を大きく残す.
	IV	K-20	3a	1	14	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	3.2	2.0	0.6	4.3	表面激しく摩耗. 不整形な平面形で尖頭部も有さない.
	IV	K-20	3a	1	15	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (上端欠)	6.5	1.7	0.7	7.5	先端折れにより欠損(衝撃剥離)のBの可能性もあるが表面摩耗のため不明. 表面摩耗. 細身.
21	IV	Д-20	36	1	16	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	8.2	3.7	0.8	26.9	木葉形. 緻密で比較的良質な石材. 基部にやや直線的になる鈍角な加工が施されているがその周辺には摩耗光沢が観察できる.
	IV	Д-20	3a	1	17	尖頭器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (下端欠)	3.0	1.4	0.4	1.5	小形木葉形. 素材剥片縦位に使用. 下端は折れ(C-①スナップ)による欠損. 背面は周辺加工. 押圧も使用と思われる.
	IV	A-20	3a	1	19	二次加工のある剥片	無斑晶質安山岩	完形	2.1	4.9	1.0	8.5	角礫が素材か? 円磨していない礫面を残す. 横長の素材剥片打面側と基部側に二次加工を施している. 小形尖頭器などの未成品の可能性あり.
	IV	A-20	3a	1	20	軽石	多孔質安山岩	完形	4.5	3.6	1.4	15.4	浮きなどの可能性もあるか? 軽石.
	IV	3-20	3a	1	23	二次加工のある礫	珪質頁岩	完形	3.5	1.7	1.1	7.1	遺跡近傍の河床で採集可能な亜円礫が素材. 不整形な剥離. 石器集中1(c-1)からの出土.
	IV	K-17	3a	1	29	二次加工のある剥片	無斑晶質安山岩	下部欠	3.7	3.3	0.5	5.0	ポイントフレイクが素材. 側縁に微細な剥離. リップ発達. 湾曲した側面観. 背面に多方向からの剥離痕.
68	IV	Ж-15	36	2	30	細石刃	玉髓 (暗褐色)	下部欠	1.6	0.5	0.1	※	5g未満のため重量計測不可. Ж-15は既調査区はす. 誤りか?
55	IV	3-17	36	2	33	細石刃核	玉髓 (暗褐色)	完形	4.5	1.3	1.5	10.9	礫面はわずかしが残っていないが, 石質から遺跡近傍の河床で採集可能な亜円礫が素材と思われる. 非削片系.
	IV	3-17	36	2	34	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山岩	下部欠	5.7	2.7	0.9	10.5	各礫が素材か? 円磨していない礫面を残す. 礫面を大きく残しており, 未成品と思われる.
48	IV	3-18	36	2	35	有茎尖頭器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	2.3	1.4	0.4	1.1	上部ガジリ折れ. 押圧剥離使用. 小形で薄い.

Table.3-3-2 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-2 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плоск	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
39	IV	E-18	36	2	36	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形	3.7	1.5	0.4	1.9	押圧剥離使用。
	IV	E-19	36	2	37	二次加工の ある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.7	3.8	1.1	10.4	鈍角の剥離、搔器などの未成品の可能性あり。素材剥片縦位に使用。
	IV	A-16	36	2	38	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	下半欠	4.2	2.9	0.9	12.5	表面激しく摩耗。木葉形。
57	IV	B-17	36	2	40	細石刃核	碧玉 (暗赤褐色)	完形	3.6	1.1	1.9	7.6	遺跡近傍の河床で採集可能な亜円礫が素材。簡略な裏面の稜調整、打面調整の後、細石刃剥離。非削片系。
56	IV	A-20	36	2	42	細石刃核	碧玉 (黄褐色)	完形	3.3	1.0	1.9	6.8	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。比較的丁寧な調整施した後、細石刃剥離。非削片系。
	IV	A-20	36	2	43	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下半欠	2.9	2.2	0.4	2.0	素材剥片斜位に使用。
	IV	A-20	36	2	44	尖頭器 (両面加工)	碧玉 (黄褐色)	完形	4.8	2.4	1.2	14.3	遺跡周辺で採集可能な円礫と同じ石質。不整形で厚みを残しており未成品と考えられる。
117	IV	3-19	36	2	46	有溝砥石	砂岩	右、下、左部 欠	6.4	5.7	3.0	114.3	多数の溝が残されている。断面形が長方形の素材。
	IV	K-18	36	2	47	石核	碧玉 (暗灰色)	完形	2.1	3.1	2.1	14.7	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
61	IV	E-20	36	2	50	二次加工の ある礫	珩質頁岩	完形	4.1	2.1	1.2	10.5	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。片側の側縁に表裏から連続的な二次加工を施している。下縁整あるいはスクレイパーの刃部作出？スクレイパーの未製品の可能性もあるが、甲板面状の比較的平坦な礫面も有しており細石刃核未成品の可能性もある。
	IV	Д-20	36	2	51	石核	珩質頁岩	左部欠	2.3	3.2	1.0	6.1	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
121	IV	Б-19	36	2	54	石核	玉髓 (黄褐色・ 灰色)	完形	4.7	4.0	5.0	98.4	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Б-19	36	2	55	石核	碧玉 (黄褐色)	完形	3.1	2.5	2.2	18.0	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	A-18	36	2	56	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	剥離事故により 器体表面を 大きく損なう	6.8	3.0	0.8	12.4	木葉形。調整時の事故剥離により、器体を大きく折り反対側縁を剥片の末端に取り込むウールパッセが生じている。
77	IV	A-18	36	2	57	搔器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.3	4.2	1.3	30.2	涙滴形。裏面下部側にわずかに素材剥片腹面を残す。
	IV	A-17	36	2	58	石核	頁岩 (黄褐色)	完形	4.1	4.5	1.4	26.1	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	A-17	36	2	59	石核	珩質頁岩 (暗褐色)	完形	3.4	7.8	2.0	52.3	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	A-18	36	2	66	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	4.2	1.2	0.4	2.3	表面激しく摩耗。細身。
	IV	Г-17	36	2	67	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	2.9	1.5	0.3	1.6	表面激しく摩耗。小形木葉形。
	IV	Д-20	36	2	68	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	4.8	3.3	0.7	9.8	素材剥片縦位に使用。裏面左側縁に連続的な二次加工。
	IV	Ж-17	36	2	69	微細剥離痕の ある剥片	緑灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	5.5	2.3	0.9	8.9	縦長剥片が素材。
	IV	K-18	36	3	73	石核	珩質頁岩 (暗褐色)	完形	2.1	3.6	2.7	21.9	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	И-18	36	3	74	搔器 (片面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	3.7	4.5	1.4	25.4	素材剥片横位に使用。表面に平坦な礫面残す。
	IV	Ж-17	36	3	75	二次加工の ある剥片	無斑晶質安山 岩	上部下部欠	3.8	2.9	0.5	6.7	ポイントフレイクが素材。側縁に微細な二次加工が連続。側縁観が湾曲。背面が多方向からの剥離面で構成。
	IV	Ж-18	36	3	77	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半下半欠	2.0	2.2	0.6	3.4	押圧も使用か？細身。
	IV	Ж-18	36	3	78	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	3.2	2.1	0.6	3.5	細身。
	IV	Ж-18	36	3	79	二次加工の ある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	上、左、下部 欠	2.3	2.6	0.4	1.9	素材剥片腹面側に二次加工。
	IV	Ж-18	36	3	80	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山 岩	上半下半欠	3.2	2.3	0.9	7.3	細身。
	IV	E-17	36	3	81	細石刃	玉髓 (暗褐色)	上部下部欠	1.0	0.4	0.1	※	5g未満のため重量計測不可。

Table.3-3-3 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-3 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плает	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	IV	E-19	36	3	83	石核	碧玉 (暗赤褐色)	完形	2.7	2.6	1.3	8.3	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。 暗。
	IV	Ж-19	36	3	84	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	1.7	3.4	0.6	4.3	素材剥片縦位に使用。
	IV	И-20	36	3	85	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (上端欠)	4.0	2.0	0.6	4.4	小形木葉形。表面激しく摩耗。先端にAの痕跡持つが他の剥離面より摩耗の程度が低い。ため新しい痕跡の可能性高い。
	IV	И-20	36	3	86	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	2.8	2.2	0.5	3.3	素材剥片縦位に使用。ポイントフレイクが素材か？小形木葉形尖頭器の未成品の可能性も。
	IV	Ж-20	36	3	87	石核	頁岩 (黄褐色)	完形	2.8	1.2	3.9	13.3	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。ごく簡素な打面調整と作業面調整を行い、小口面から細石刃をはがそうとしたようにも見えるが、成功していない。
	IV	Ж-20	36	3	88	石核	珪質頁岩 (緑灰色)	下部欠	2.4	3.6	1.4	12.8	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	K-20	36	3	89	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	2.8	1.8	0.5	2.6	押圧使用。小形で細身。上下の折れはC-①スナップ。
	IV	K-18	36	3	90	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上端下部欠	3.4	2.5	0.6	5.9	木葉形。下部はC-①スナップ、上部はごく小さい折れ(C-①スナップ)から発生した縦溝状剥離痕が確認できるが打点を確認できるため衝撃剥離痕ではなく、二次加工の可能性の方が高いと思われる。
	IV	A-17	36	3	92	石核	玉髓 (赤褐色)	完形	3.0	5.7	3.1	64.7	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Б-17	36	3	93	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.5	4.0	1.0	7.6	素材剥片横位に使用。
	IV	Б-18	36	3	98	石核	玉髓 (橙褐色)	完形	2.4	3.0	2.8	20.8	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Г-18	36	3	99	二次加工のある剥片	無斑晶質安山岩	完形	6.4	7.4	1.8	63.2	平坦で円磨していない礫面を残す。一次原産地近傍で採集されたものと思われる。表裏両面にポジ面残す。石器素材として搬入されたか？
99	IV	Г-18	36	3	100	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	左部欠	4.5	3.5	0.8	8.6	横長剥片の末端部の平面形が湾曲した部分の腹側に二次加工。表面摩耗。
	IV	Г-18	36	3	101	石核	玉髓 (黄褐色)	完形	2.4	3.0	1.6	11.6	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Г-19	36	3	102	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (左部欠)	4.0	3.8	0.6	6.2	平坦な礫面残す。表面摩耗。
	IV	Д-19	36	3	103	原石	頁岩 (黄褐色)	下部欠	3.0	2.6	1.3	12.1	遺跡近傍で採集可能な亜円礫。石器素材として持ち込んだが折れてしまったため放棄か？
	IV	Д-20	36	3	105	石核	頁岩 (黄褐色)	下部欠	2.6	3.0	1.1	6.4	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Д-20	36	3	107	尖頭器 (未成品)	頁岩 (黄褐色)	完形	2.9	2.0	1.1	4.3	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。小形木葉形？尖頭部は作出されているが未加工部分を残し不整形。未成品。
98	IV	A-19	36	3	109	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	9.7	3.1	1.4	36.6	縦長剥片が素材。ポイントフレイク。背面構成多方向からの剥離による。リップ発達。湾曲した側面観。
75	IV	Б-20	36	3	110	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.1	2.7	0.8	8.0	素材剥片縦位に使用。表面右側縁に表裏から連続的な二次加工。
	IV	Б-20	36	3	111	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	3.7	1.8	0.5	3.1	小形。左右非対称。折れ面はC-①スナップ。
15	IV	Г-20	36	3	113	有茎石鏃	チャート (暗灰色)	ほぼ完形 (上下端欠)	2.8	1.5	0.3	1.3	押圧剥離。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。オシボフカの有茎尖頭器とはサイズ、形態、石材が異なる。
	IV	A-18	36	3	115	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	側縁部破片	3.7	1.4	0.7	2.9	折れ(C-①スナップ)により生じた破片。
	IV	K-17	36	3	118	二次加工のある剥片	碧玉 (緑灰色)	完形	2.7	3.5	1.0	8.1	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
111	IV	K-18	36	3	119	打裂石斧	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	9.3	4.6	3.1	131.4	表面激しく摩耗。稜線などの読み取り難しい。比較の変成の程度が高い石材と思われる。
35	IV	K-18	36	3	120	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.9	2.2	0.6	6.1	木葉形。

Table.3-3-4 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-4 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плоск	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	IV	K-19	36	3	121	搔器 (片面加工)	凝灰岩?	完形	5.6	3.2	0.9	20.5	扁平な亜円礫が素材。礫面を大きく残し、端部と両側縁に二次加工を施し、結果的に両面・片面加工搔器によく見られるような平面形となっている。
82	IV	И-18	36	3	122	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.0	3.1	1.4	23.5	素材剥片縦位に使用。裏面の二次加工は裏面左側縁にわずかに施されているのみ。
70	IV	3-18	36	3	123	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.1	6.9	1.0	25.8	素材剥片縦位に使用。ポイントフレイクが素材。リップ発達、背面が多方向からの剥離で構成。湾曲した側面観。
105	IV	Ж-19	36	3	124	局部磨製 石斧	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	8.1	3.6	1.6	58.6	刃こぼれなし。片刃、丸のみ状。
90	IV	И-20	36	3	125	搔器 (片面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	6.0	3.1	1.3	25.2	表面摩耗。素材剥片斜位に使用。
22	IV	E-20	36	3	126	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山 岩	完形	9.3	2.4	1.2	24.8	比較的細身。厚みも比較的大。
20	IV	Ж-19	36	3	127	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.4	3.5	0.9	21.7	左右非対称。折れ面残すが、除去しようとした加工が認められる。
62	IV	E-19	36	3	128	二次加工の ある礫	頁岩 (灰色)	完形	4.7	2.6	1.4	14.0	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。表裏からスクレイパーの刃部もしくは細石刃核の下縁調整のような二次加工が施されている。甲板面状の平坦な自然面も有しており、細石刃核未成品の可能性もある。
	IV	E-17	36	3	129	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	3.8	1.7	0.7	3.6	不整形。
24	IV	A-16	36	3	130	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.6	2.5	1.3	22.4	不整形。比較的細身の木葉形。
42	IV	A-18	36	3	131	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.0	0.9	0.3	0.5	非常に小形の木葉形。押圧剥離使用。
	IV	Г-18	36	3	132	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	6.4	2.3	1.2	15.3	下部の折れC-①ステップ。加工中の剥離事故か? 比較的細身。
	IV	Г-19	36	3	133	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	8.0	3.3	2.5	59.0	表面激しく摩耗。不整形、未成品。
78	IV	Д-19	36	3	134	搔器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.1	3.2	1.1	21.6	基部がすばまる楕円形の平面形。
	IV	A-17	36	3	135	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (上端欠)	4.4	2.0	0.5	4.7	先端に小さいB発生(長さ5mm)。小形木葉形。
	IV	A-17	36	3	136	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.2	2.4	0.9	9.8	湾曲した側面観。折れ面はC-①ステップ。
	IV	Д-20	36	3	137	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	3.9	3.0	0.5	6.2	素材剥片横位に使用。
36	IV	Б-19	36	3	138	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.0	1.9	0.7	6.2	小形細身。
	IV	A-20	36	3	139	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.0	1.9	0.8	5.0	小形木葉形
	IV	Б-20	36	3	140	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	4.5	2.9	0.7	9.1	折れ面C-①スナップ
28	IV	Д-20	36	3	141	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (上端欠)	5.8	1.9	0.6	6.6	先端C-①スナップ。押圧剥離使用。基部が三角形に収斂する形態。細身。
31	IV	Б-20	36	3	142	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.4	2.1	0.5	6.5	小形木葉形。143-145と共に集中を形成(C.A.1)して出土。
30	IV	Б-20	36	3	143	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.5	2.2	0.6	7.8	小形木葉形。142,144-145と共に集中を形成(C.A.1)して出土。
32	IV	Б-20	36	3	144	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.9	2.2	0.6	6.8	小形木葉形。142-143,145と共に集中を形成(C.A.1)して出土。
29	IV	Б-20	36	3	145	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (下端欠)	5.6	2.2	0.6	7.8	下端の折れはC-①スナップ。142-144と共に集中を形成(C.A.1)して出土。
	IV	K-17	36	4	149	搔器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.8	3.4	0.7	15.3	素材剥片縦位に使用。素材剥片の打面側を搔器刃部としている。平坦な礫面をわずかに残す。ポイントフレイクが素材と思われる。リップやや発達、湾曲した側面観、背面が多方向からの剥離で構成される。
52	IV	K-17	36	4	150	細石刃核	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.7	1.3	2.1	5.7	小形の削片系細石刃核
	IV	K-17	36	4	152	石核	玉髓(赤褐色、 灰褐色)	完形	2.7	3.8	1.3	13.3	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	K-17	36	4	153	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上端、下半欠	3.7	3.0	1.0	9.6	先端A(4mm)、下部C-①スナップ

Table.3-3-5 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-5 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плает	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	IV	K-18	36	4	154	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	5.4	2.6	1.0	14.1	素材剥片縦位に使用。下部の折れC- ①フェザー
	IV	3-17	36	4	155	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上, 左部欠	2.8	4.7	0.4	5.5	側縁に細かな二次加工が連続して施 されている
54	IV	3-17	36	4	156	細石刃核	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.6	0.7	2.7	5.5	剥片素材。下縁調整と打面調整の 後、細石刃剥離。非削片系。
26	IV	3-19	36	4	157	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.4	2.0	0.7	9.7	細身。押圧も使用。
	IV	Ж-16	36	4	158	原石	玉髓 (赤褐色)	完形	4.8	3.7	2.3	48.7	遺跡近傍で採集可能な垂円礫。未加 工
	IV	E-16	36	4	159	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上, 右部欠	4.5	2.9	0.6	9.5	比較的鈍角な剥離が施されている
	IV	E-17	36	4	160	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	3.1	2.8	0.4	2.8	素材剥片縦位に使用。折れはC-①ス ナップ
40	IV	E-18	36	4	161	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.9	1.3	0.3	1.0	素材剥片縦位に使用。押圧剥離使 用。
	IV	E-18	36	4	162	尖頭器 (両面加工)	緑灰色堆積岩 (緻密)	完形	8.0	2.9	1.1	25.5	上半部は非常に丁寧な加工で尖頭部 も作出されている。下半は両側縁に 折れ面を大きく残す。未成品ある いはナイフなどとして使用された可 能性もある(下部の両側縁の折れ面は着 柄や持ち手としての形態を有してい る可能性もある)
	IV	И-20	36	4	163	搔器 (片面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	3.3	3.8	1.2	18.2	素材剥片縦位に使用。刃部の平面形 は直線的。
17	IV	K-19	36	4	164	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	右下部欠	11.0	4.7	1.3	62.7	木葉形。折れはC-①スナップ、側縁 方向から発生しており加工時に生じ た事故剥離と考えられる。
	IV	K-20	36	4	165	石核	碧玉 (黄褐色)	完形	1.2	2.0	3.7	11.1	遺跡近傍で採集可能な垂円礫が素 材。チョッパー状の剥離が行われて いる。
88	IV	K-20	36	4	166	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.3	3.4	1.3	26.1	素材剥片縦位に使用。三角形の平 面形
	IV	Ж-18	36	4	167	二次加工の ある礫	頁岩 (黄白色)	完形	3.1	2.1	1.0	4.7	遺跡近傍で採集可能な垂円礫が素 材。
	IV	E-20	36	4	168	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	3.3	1.5	0.3	1.9	小形木葉形。押圧使用
	IV	E-20	36	4	169	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	3.3	2.4	0.6	5.3	素材剥片縦位に使用。折れはC-①ス ナップ
103	IV	Г-16	36	4	170	磨製石斧	緑灰色堆積岩 (緻密)	完形	12.6	6.1	1.8	189.5	剥離による二次加工の後、全面研磨。 研磨が十分でなく剥離の痕跡を残す 部分も多数。刃部は刃こぼれ状に不 整形になっている。
	IV	Д-17	36	4	171	尖頭器 (両面加工)	無斑質安山 岩	完形	8.1	2.9	1.3	27.2	木葉形。厚み残す
	IV	A-16	36	4	172	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	4.6	1.2	0.4	2.2	表面激しく摩耗。稜線などはほとん ど読み取れない。細身
25	IV	A-16	36	4	173	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.4	2.0	0.6	9.5	細身で丁寧なつくり
	IV	Б-17	36	4	174	搔器 (片面加工)?	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	6.2	2.5	1.6	21.5	素材剥片横位に使用。下部が失われ ているため刃部が確認できない。そ のため搔器ではない可能性もある。 加工の類似などから片面加工の搔器 と判断。下部は側縁方向からの剥離 で失われており、加工時の事故と思 われる。
	IV	Б-18	36	4	175	細石刃	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	2.5	1.0	0.4	0.7	細石刃としてはやや大型。
	IV	Б-18	36	4	176	細石刃	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	1.1	0.4	0.2	※	5g未満のため重量計測不可。
	IV	Б-17	36	4	177	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	6.5	4.5	1.0	28.4	素材剥片縦位に使用。ポイントフレ イクが素材。湾曲した側面観、背面 が多方向からの剥離によって構成さ れている。削器的な刃部が裏面右側 縁に直線的に、搔器的な刃部が表面 端部に丸みを帯びた平面形で作出さ れている。
	IV	Б-17	36	4	178	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	3.4	2.7	0.5	2.9	素材剥片縦位に使用。両側縁に細か な二次加工が連続して施されている。
	IV	Б-18	36	4	180	両面加工石器	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	6.1	3.1	1.1	22.8	表面激しく摩耗。稜線など読み取り 不可能。不定形で尖頭部などは作出 されていない。

Table.3-3-6 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-6 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Пласс	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	IV	A-17	36	4	181	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	5.1	1.6	0.5	3.4	細身、押圧剥離使用。尖頭部の欠損はC-①スナップ。
	IV	A-20	36	4	182	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	3.0	1.3	0.4	1.5	小形木葉形。表面激しく摩耗。稜線などの読み取り不可能。
	IV	Д-17	36	4	183	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	6.4	3.1	1.4	26.1	尖頭器など製作しようとした失敗品か？
	IV	Ж-19	36	4	184	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下半欠	2.3	2.2	0.5	3.0	上下の折れはC-①スナップ。
	IV	3-18	36	4	185	石核	玉髓 (暗褐色)	完形	2.5	2.6	1.9	13.3	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	3-19	36	4	186	石核	玉髓 (暗褐色)	完形	3.2	3.1	2.0	25.1	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	3-17	36	5	189	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	3.5	1.8	0.5	3.1	小形木葉形。表面摩耗
	IV	K-17	36	5	190	石核	頁岩 (赤褐色)	完形	2.9	3.0	1.6	12.2	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	K-19	36	5	191	両面加工石器	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	5.5	5.7	1.5	60.5	下部の折れC-①スナップ。折れ面に対する再加工あり。欠損した石斧など、あるいは両面加工搔器未成品(再加工品)？
	IV	3-17	36	5	192	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	側縁部の破片	3.4	1.5	1.0	4.3	折れ(C-①スナップ)により生じた破片。
	IV	Ж-17	36	5	193	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.7	2.4	0.9	10.3	木葉形。
50	IV	Ж-17	36	5	195	両面加工石器	頁岩 (灰褐色)	上、下部欠	5.5	4.2	1.4	45.6	上下に折れ面、両面加工搔器の未成品か？
94	IV	Ж-16	36	5	196	搔器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.2	3.6	1.0	17.2	ポイントフレイクが素材か？切子打面、リップ発達。
84	IV	Ж-16	36	5	197	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.1	3.7	1.9	38.5	素材剥片縦位に使用。表面に素材礫の節理面残す。
	IV	Ж-16	36	5	198	尖頭器 (両面加工)	緑灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (下端欠)	4.4	1.6	0.4	3.2	細身。下部の折れ面はC-①フェザー。
	IV	Ж-17	36	5	199	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	6.0	3.6	1.8	37.4	下部の折れC-①スナップ。厚み残しており未成品と考えられる(下部が存在しないため両面加工搔器の可能性もある)。
23	IV	E-18	36	5	200	尖頭器 (両面加工)	流紋岩？	ほぼ完形 (下端欠)	7.8	1.9	0.9	12.0	細身。押圧使用。下部の折れC-①スナップ。
91	IV	E-18	36	5	201	搔器 (片面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	3.8	2.1	0.8	5.5	表面激しく摩耗。稜線などの読み取り困難。
	IV	Ж-18	36	5	202	石核	頁岩 (灰色、褐色)	完形	3.5	2.0	2.4	14.0	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Ж-18	36	5	203	尖頭器 (両面加工)	チャート (暗灰色)	完形	4.6	3.0	1.3	17.3	木葉形、不整形、未成品。
	IV	Ж-18	36	5	204	石核	珪質頁岩 (褐色)	完形	3.5	2.2	1.2	10.2	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
67	IV	3-19	36	5	205	細石刃	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.0	0.5	0.1	※	5g未満のため重量計測不可。
59	IV	3-19	36	5	206	細石刃核	碧玉 (暗赤褐色)	完形	1.9	2.3	1.5	6.6	節理面も有する。遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。非削片系。
18	IV	Г-17	36	5	207	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	9.2	3.6	1.0	34.5	木葉形。
	IV	B-18	36	5	208	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.2	2.4	1.4	15.1	器体表面にこぶの出っ張りを残す。尖頭部不明瞭。
34	IV	Д-20	36	5	209	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.0	2.4	0.7	7.8	木葉形。
	IV	B-19	36	5	210	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下半欠	2.2	2.0	0.6	2.5	上下の折れはC-①スナップ。
73	IV	E-20	36	5	211	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.5	3.6	1.1	12.5	素材剥片縦位に使用。
79	IV	Г-16	36	5	212	搔器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.0	3.4	1.3	27.6	三角形の平面形。
	IV	E-20	36	5	213	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.4	3.3	1.2	21.0	ポイントフレイクが素材。リップ発達。背面が多方向からの剥離によって構成されている。湾曲した側面観。
	IV	Д-19	36	5	214	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	3.5	2.2	0.5	4.2	上部の欠損A(3mm)、下部C-①スナップ、細身。
	IV	Ж-17	36	6	215	石核	チャート (暗灰色)	完形	2.9	4.3	1.9	28.0	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Ж-17	36	6	216	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.3	2.3	0.8	7.4	木葉形。

Table.3-3-7 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-7 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плоск	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	IV	Ж-17	36	6	217	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	4.5	1.8	0.8	3.5	表面激しく摩耗。稜線などの読み取りほとんど不可能。
93	IV	Ж-16	36	6	218	搔器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.2	3.5	0.6	11.6	表面摩耗。素材剥片縦位に使用。ポイントフレイクが素材。切り打面、リップやや発達、湾曲した側面観。
	IV	Ж-16	36	6	219	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上, 下部欠	2.9	1.7	0.3	1.9	細身。押圧使用。
116	IV	Ж-19	36	6	221	打製石斧	粘板岩	完形	8.4	4.6	1.3	57.2	表面摩耗。
	IV	Ж-19	36	6	222	石核	玉髓 (赤褐色)	完形	2.4	2.6	2.7	17.1	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Д-16	5a	6	223	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	3.2	2.2	0.5	4.2	素材剥片縦位に使用。
110	IV	Е-16	36	6	224	磨製石斧	暗灰色堆積岩 (粗粒)	破片	5.7	4.0	1.1	34.1	全面研磨の磨製石斧か? 基部側に向かい収斂する平面形と思われる。基部側の破片で、上下と表側あるいは裏側を失っている。縦方向に割れ発生。
46	IV	Г-16	5a	6	226	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	3.8	3.8	1.1	10.8	木葉形。折れ面はC-①フェザー。
45	IV	Г-16	5a	6	227	尖頭器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	4.5	5.4	1.3	29.0	素材剥片縦位に使用。二次加工は器体全面を覆っていない。特に裏面は素材剥片腹面を大きく残す。
	IV	Г-16	5a	6	228	石核	玉髓 (黄褐色)	完形	3.7	3.8	2.3	44.4	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
81	IV	Г-16	5a	6	229	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.0	4.3	1.6	44.6	素材剥片縦位に使用。裏面は素材剥片腹面を大きく残す。末端刃縁が直線的、両側縁や丸みを帯び基部で収斂。三角形の平面形。
65	IV	Г-16	5a	6	230	細石刃	玉髓 (透明, やや 橙色帯びる)	完形	3.2	1.1	0.2	0.6	細石刃としてはやや大型。
	IV	Г-16	5a	6	231	石核	玉髓 (黄褐色)	完形	3.8	2.3	2.6	29.9	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	IV	Г-16	5a	6	232	尖頭器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上端欠, 下半欠	4.0	2.5	0.9	8.4	素材剥片横位に使用。裏面には素材剥片腹面を大きく残す。上下の折れはC-①スナップ。
47	IV	А-16	5a	6	233	有茎尖頭器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.8	1.6	0.5	3.7	素材剥片縦位に使用。折れはC-①スナップ。周辺加工。
16	IV	Г-16	5a	6	234	尖頭器 (両面加工)	ホルンフェルス	完形	11.9	4.8	2.7	151.7	表面摩耗。不整形で厚みを残す。未成品。
	IV	Д-16	5a	6	237	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.3	4.0	2.4	67.8	厚み残し不整形。未成品。
	V	М-13	дерн поддерн (表土~表 土下)	дерн поддерн (表土~表 土下)	239	搔器 (周辺加工)	チャート (暗灰色)	完形	1.5	1.6	0.9	3.0	非常に小形の指状搔器。 дерн поддерн(表土から表土下)出土。
53	V	М-13	дерн поддерн (表土~表 土下)	дерн поддерн (表土~表 土下)	240	細石刃核	頁岩 (黄褐色)	ほぼ完形 (下端欠)	2.7	1.7	2.7	25.0	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。下線調整と削片剥離(器体全面には抜かず、ヒンジを起し途中で止まっている)後に小口面よりごく小さい細石刃剥離(細石刃剥離は失敗か?)。十分な長さの細石刃は剥離できていない。 дерн поддерн(表土から表土下)出土。
1	V	Л-13	дерн поддерн (表土~表 土下)	дерн поддерн (表土~表 土下)	241	磨製石斧	緑灰色堆積岩 (緻密)	完形	3.8	3.0	0.7	10.4	非常に小形。両側縁には剥離面を残す。研磨を切る剥離もあり。刃部平面形は直線的。片刃、刃部正面観直線的。刃こぼれなどなし。 дерн поддерн(表土から表土下)出土。
76	V	О-11	2	不明	242	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.3	2.6	0.8	10.2	素材剥片横位に使用。
	V	П-12	2	不明	243	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	2.6	4.5	1.2	14.6	木葉形。折れ面C-①スナップ
127	V	М-20	不明	2	244	石錘	ホルンフェルス	完形	13.3	8.7	2.8	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。扁平な亜角礫が素材。
3	V	М-14	2	不明	245	擦切りにより 作出された石 器素材	粘板岩?	上部欠	8.5	2.1	0.8	19.8	両側縁に擦切りの痕跡残す。オシボフカより新しい時期の遺物の可能性あり。

Table.3-3-8 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-8 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Пласс	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
8	V	H-15	3a	1	246	磨製石斧	暗灰色堆積岩 (粗粒)	下半欠	4.6	2.7	1.1	22.7	セクターⅠの石斧関連資料の集中出土に同形態の磨製石斧あり。オンボフカより新しい時代の遺物の可能性あり。刃部欠損。
12	V	O-19	3a	1	247	打製石斧	暗灰色堆積岩 (粗粒)	下部欠	7.6	3.8	1.5	55.5	短冊形。オンボフカより新しい時代の遺物の可能性あり。
	V	H-20	3a	1	248	尖頭器 (両面加工)	珪質頁岩 (暗灰色)	下半欠	4.2	2.2	0.3	3.0	良質な石材で、非常に丁寧な作り。細く薄い。押圧剥離使用。折れ面はC-①スナップ。
	V	Л-14	3a	1	249	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	4.3	3.2	0.9	11.2	素材剥片縦位に使用。背面に素材の礫面(節理面)残す。
	V	M-14	3a	2	252	細石刃	碧玉 (暗赤褐色)	完形	2.3	1.1	0.3	0.8	遺跡近傍で採集可能な亜円礫と同じ石質。微細剥離痕を有する。
	V	H-15	3a	2	253	搔器 (片面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	5.7	3.4	1.5	21.8	表面激しく摩耗。稜線などの読み取りほとんど不可能。三角形の平面形。
	V	H-13	3a	2	254	削器	玉髓 (黄褐色)	完形	5.2	2.6	1.2	13.6	縦長剥片が素材。石質は遺跡近傍で採集可能な亜円礫と同じだが、背面に残る礫面は円磨を受けていない角礫状。素材剥片は両極剥離使用と推定できる。
	V	Л-14	3a	2	255	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山岩	完形	6.5	2.3	1.0	14.5	細身、不整形で尖頭部未作出。未成品。
	V	Л-12	3a	2	256	石核	珪質頁岩 (白色)	完形	3.8	3.1	2.1	22.8	本遺跡ではあまり用いられていない石質。
	V	Л-12	3a	2	257	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	4.7	1.6	0.7	4.5	表面摩耗。細身。
	V	H-19	3a	2	258	尖頭器 (両面加工)	チャート (暗赤褐色)	下部欠	4.2	1.7	0.4	2.8	細身、押圧剥離使用。
	V	H-19	3a	2	260	磨製石斧	緑灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	1.5	2.6	0.4	1.7	刃部破片。小形。
	V	Л-20	3a	2	261	石核	碧玉 (黄褐色)	完形	3.8	5.1	2.4	51.4	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	V	Л-20	3a	2	262	石核	碧玉 (黄褐色)	完形	4.5	4.1	2.1	46.0	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	V	Л-20	3a	2	263	搔器 (半両面加工)	珪質頁岩 (暗灰色)	完形	3.8	3.1	1.3	15.4	素材剥片横位に使用。裏面は素材剥片腹面を大きく残す。良質な石材。
7	V	O-18	3a	2	264	磨製石斧	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	上部下部欠	6.2	2.9	1.3	36.9	両側縁平行する短冊形の形態。オンボフカより新しい時代の遺物の可能性あり。研磨非常に丁寧。
	V	Л-18	3a	2	265	磨製石斧	暗灰色堆積岩 (粗粒)	下部欠	5.5	3.3	1.2	26.0	基部に向かって収斂する平面形。刃部方向からめくれ上がるような剥離によって下部欠損。使用に伴う欠損の可能性あり。オンボフカより新しい時代の遺物と思われる。オンボフカのものより剥離面を残さず良く磨かれている。
	V	H-11	36	3	271	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.6	1.9	0.5	4.6	小形で細身。
	V	Л-12	36	3	272	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	上部下部欠	4.2	4.0	0.9	18.4	木葉形。折れ面はC-①スナップ。
	V	M-13	36	3	273	石核	チャート (暗灰色)	完形	3.4	4.1	2.5	30.3	円礫素材。
95	V	Л-15	36	3	274	搔器 (周辺加工)	無斑晶質安山岩	完形	5.1	3.0	0.8	13.7	素材剥片横位に使用。素材打面に円磨を受けていない礫面残す。
124	V	M-17	36	3	275	石錘	砂岩	完形	10.5	13.1	3.6	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。扁平な亜角礫が素材。主に剥離によって両側縁に抉り部作出。
	V	M-20	36	3	276	削器	無斑晶質安山岩	完形	5.5	2.4	0.9	12.1	尖頭部を有しており尖頭器の未成品の可能性もある。
	V	O-18	36	3	277	石核	玉髓 (赤褐色)	完形	3.3	3.5	2.1	23.7	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
118	V	M-12	36	3	279	有溝砥石	砂岩	上, 右, 下部欠	4.1	3.5	1.2	19.8	本資料は表面のみに溝。直行する溝が残されている。
129	V	M-11	36	3	280	敲石	多孔質安山岩	完形	10.0	8.0	2.4	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。上部に敲打痕、下部に剥離面。
	V	O-20	36	3	281	敲石	安山岩	完形	10.0	6.7	2.6	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。敲打痕と剥離痕が残る。
	V	M-18	36	3	282	台石?	砂岩	完形	12.8	11.0	4.3	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。平坦面に敲打痕残す。
120	V	Л-15	36	3	283	石核	ホルンフェルス	完形	7.8	14.0	5.0	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。表面摩耗著しい。ブロック状。

Table.3-3-9 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-9 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плает	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
41	V	Л-15	36	3	284	尖頭器 (周辺加工)	緑灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.7	0.9	0.2	0.6	非常に小形の木葉形。押圧剥離使用。素材剥片縦位に使用。
	V	Л-13	36	3	285	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	左部欠	1.7	2.6	0.4	1.5	素材剥片横位に使用。小形尖頭器の未成品の可能性もあり。
	V	Л-20	36	3	286	搔器 (片面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	4.3	2.5	1.0	11.7	表面激しく摩耗。稜線などの読み取りほとんど不可能。やや不整な三角形の平面形。
	V	Л-20	36	3	287	二次加工のある剥片	緑灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (右端欠)	5.2	6.2	0.6	16.4	ポイントフレイクが素材。切り打面、リップ発達、湾曲した側面観、背面が多方向からの剥離によって構成されている。
	V	П-20	36	4	291	縦長剥片	チャート (暗灰色)	下部欠	2.9	1.9	0.3	1.7	基部に向かって広がる平面形。末端ステップ。良質のチャート使用。
38	V	Н-20	36	4	292	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.2	1.7	0.6	4.1	基部三角形、上部の折れはC-①スナップ。細身、押圧使用。
72	V	M-20	36	4	293	削器	無斑晶質安山岩	完形	4.4	5.7	0.9	23.8	ポイントフレイクが素材と思われる。背面が多方向からの剥離によって構成されている。
125	V	H-19	36	4	294	石錘	砂岩	完形	8.9	6.2	3.0	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。敲打により抉り部を作出。
115	V	M-17	36	4	295	打製石斧	粘板岩	上部下部欠	15.0	5.4	2.4	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。表裏に節理面を残す。二次加工は主に側縁方向から。
	V	П-11	36	4	296	石核	碧玉 (赤褐色)	完形	4.6	3.8	2.2	63.7	遺跡近傍で採集可能な亜角礫が素材。
	V	П-12	36	4	297	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.7	3.2	1.0	8.2	折れ面C-①フェザー。木葉形。
	V	O-14	36	4	298	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山岩	上部下半欠	4.2	3.3	0.8	15.0	上下の折れともに側縁方向から発生したように見える。調整時の事故?
	V	O-11	36	4	299	石核	頁岩 (黄褐色)	完形	4.8	3.6	3.6	41.8	遺跡近傍で採集可能な亜角礫が素材。打撃による剥離は1か所のみ。その他は被熱によるハジケと思われる。
	V	H-11	36	4	300	尖頭器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	上半欠	3.0	3.0	1.0	9.0	表面激しく摩耗。素材剥片横位に使用。折れはC-①スナップ。
69	V	H-11	36	4	301	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	10.0	5.3	1.2	58.1	素材剥片縦位に使用。表面やや摩耗。ポイントフレイクが素材と思われる。切り打面、背面が多方向からの剥離によって構成されている。
100	V	H-11	36	4	302	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.8	2.6	1.3	26.7	素材剥片縦位に使用。表面に素材の礫面を大きく残す。亜角礫が素材。
	V	M-11	36	4	303	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.2	2.2	0.4	1.9	木葉形。折れ面はC-①スナップ。
74	V	Л-11	36	4	304	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.7	3.4	0.9	14.3	表面摩耗。素材剥片縦位に使用。
85	V	M-16	36	4	305	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.9	3.0	1.3	19.0	素材剥片横位に使用。裏面は素材覆面を大きく残し、二次加工は主に末端方向から施されている。涙滴形。
	V	O-20	36	4	306	細石刃	碧玉 (暗黄褐色)	完形	4.0	1.1	0.3	1.4	両側縁に微細な剥離痕連続。細石刃としては大型。
	V	O-13	36	4	307	石核	珩頁岩 (暗褐色)	完形	2.7	3.7	3.3	32.6	遺跡近傍で採集可能な亜角礫が素材。
108	V	O-13	36	4	308	磨製石斧	緑灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.9	3.9	1.5	61.1	剥離→全面研磨。断面かまぼこ形。刃部方向から研磨切る剥離多数。ただしそのあとにも刃部に研磨が施されている。使用による刃こぼれが再加工かは不明。現状の刃部は片刃、丸のみ状。
	V	H-13	36	4	309	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下半欠	3.0	2.5	0.7	5.2	木葉形。上下の折れはC-①スナップ。
	V	M-13	36	4	310	縦長剥片	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	上部欠	4.9	0.9	0.4	2.1	二次加工なし。表面激しく摩耗。
	V	O-13	36	4	311	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.8	2.5	0.5	6.6	素材剥片縦位に使用。平坦な礫面残す。
	V	M-13	36	4	312	細石刃	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	1.5	0.7	0.2	※	5g未満のため重量計測不可。
	V	Л-13	36	4	313	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	4.1	3.0	0.8	12.2	木葉形。折れ面C-①フェザー。
	V	Л-13	36	4	314	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.7	2.8	0.6	5.0	木葉形。
89	V	H-14	36	4	315	搔器 (片面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.8	3.8	1.4	31.0	素材剥片斜位に使用。三角形の平面形。

Table.3-3-10 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-10 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Пласс	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	V	M-14	36	4	316	石核	碧玉 (暗赤褐色)	完形	1.3	3.2	1.6	7.9	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	V	Л-14	36	4	317	細石刃	チャート (暗灰色)	上部欠	1.6	0.9	0.1	※	5g未満のため重量計測不可。
	V	Л-15	36	4	318	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.2	4.2	1.8	37.8	表裏に素材の剥離面残す。素材剥片縦位に使用。
	V	H-14	36	4	319	尖頭器 (両面加工)	ホルンフェルス	上半欠	4.9	3.1	1.8	14.3	表面激しく摩耗。折れはC-①スナップ。
	V	M-14	36	4	320	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.1	2.5	0.8	9.4	素材剥片横位に使用。三角形の平面形。
33	V	Л-19	36	4	321	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.5	2.2	0.8	10.3	やや細身。素材剥片縦位に使用。不整形。未成品か？
	V	Л-20	36	4	322	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下半欠	4.2	3.3	0.9	12.4	木葉形。折れ面はC-①スナップ。
114	V	M-17	36	4	323	打製石斧 未成品	粘板岩	完形	17.9	7.1	3.2	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。未成品。表裏、側面に節理面残す。
	V	H-20	36	4	324	敲石	砂岩	完形	10.5	8.6	3.6	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。わずかに敲打痕、剥離痕残す。
	V	O-19	36	4	325	礫器	石英安山岩	左部欠	6.2	6.4	4.1	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。石材名？石英(あるいは長石)を含む。亜角礫素材。
128	V	П-18	36	4	326	敲石	安山岩	完形	8.9	5.2	2.7	164.5	敲打痕、砕け状の剥離痕あり。
80	V	O-11	36	5	330	搔器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.0	2.8	1.4	—	重量未計測。
	V	П-12	36	5	331	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	破片	4.7	1.6	1.5	8.4	折れ(C-①スナップ)により生じた破片。
	V	M-14	36	5	334	縦長剥片	碧玉 (暗灰色)	完形	2.9	1.1	0.2	0.8	遺跡近傍で採集可能な亜円礫と同じ石質。細石刃とするには両側縁が並行しておらず不定形。
	V	M-14	36	5	335	石核	珩質頁岩 (暗褐色)	完形	2.8	1.6	2.6	16.6	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	V	O-20	36	5	336	石核	珩質頁岩 (灰褐色)	完形	4.1	2.3	2.3	21.7	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
71	V	M-15	36	5	337	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.9	4.3	0.6	12.5	素材剥片縦位に使用。ポイントフレイクが素材。切り打面、リップやや発達、湾曲した側面観、背面が多方向からの剥離によって構成されている。
	V	П-15	36	5	338	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上、下部欠	5.1	2.1	0.7	7.2	細身。上下部の折れはC-①スナップ。
	V	O-19	36	5	339	石核	玉髓 (赤褐色)	完形	1.6	5.0	2.4	19.0	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	V	O-19	36	5	340	細石刃	珩質頁岩 (暗褐色)	完形	3.7	1.2	0.3	1.3	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。細石刃としてはやや大型。
	V	O-19	36	5	341	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山岩	下半欠	3.1	2.4	0.7	5.7	木葉形。素材剥片横位に使用。
	V	M-20	36	5	342	縦長剥片	暗灰色堆積岩 (粗粒)	上部欠	5.6	1.3	0.5	3.5	表面激しく摩耗。石刃様の縦長剥片。
	V	O-18	36	5	343	細石刃	チャート (暗灰色)	下部欠	2.1	0.8	0.3	0.5	良質なチャートを使用。
	V	H-18	36	5	345	削器	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	上部欠	2.9	2.6	0.4	3.6	表面摩耗。素材剥片縦位に使用。上部C-①スナップ。三角形の平面形。上部を欠損しているが、周辺加工の三角礫の可能性あり。
27	V	H-17	36	5	346	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	右上部欠	6.9	2.4	0.9	15.8	右上部欠。折れ面C-①フェザー。
113	V	M-12	36	5	347	打製石斧	緑灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	11.8	6.8	3.3	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。三角形の平面形。
63	V	Л-11	36	5	348	細石刃	碧玉 (黄褐色)	完形	4.2	1.1	0.3	1.6	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。細石刃としては大型。
96	V	Л-19	36	5	350	縦長剥片	暗灰色堆積岩 (粗粒)	上部欠	6.9	2.7	0.7	14.2	表面激しく摩耗。石刃様の縦長剥片。背面は主に上下からの剥離面で構成されているが、一部その他の方向から生じた剥離面も存在。
	V	Л-19	36	5	351	二次加工のある剥片	珩質頁岩 (黄褐色)	完形	4.2	1.0	0.7	2.2	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	V	П-19	36	5	352	細石刃	碧玉 (暗褐色)	上、下部欠	1.9	0.7	0.2	※	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。5g未満のため重量計測不可。
	V	Л-11	36	5	353	削器	無斑晶質安山岩	上半欠	2.4	3.6	0.7	5.8	小さな錐状の突出部あり。

Table.3-3-11 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-11 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плacr	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	V	Л-19	5a	6	358	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下半欠	2.5	1.7	0.7	2.6	折れ面C-⑦フェザー。
	V	M-20	5a	6	359	削器	チャート (暗灰色)	完形	3.0	3.3	0.5	3.7	良質のチャートを使用。
	V	O-20	5a	6	360	削器	無斑晶質安山 岩	完形	3.5	3.8	1.0	11.7	背面が多方向からの剥離によって構成されている。
	V	O-20	5a	6	361	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下半欠	3.1	2.0	0.5	2.6	折れ面C-⑧スナップ。
	V	M-15	36	6	362	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	4.2	2.2	1.1	9.6	表面激しく摩耗。
	V	H-14	36	6	363	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	3.5	1.8	0.7	4.9	表面激しく摩耗。
	V	O-18	3r	6	364	細石刃	チャート (暗灰色)	完形	1.6	0.4	0.1	※	5g未満のため重量計測不可。
	V	П-11	36	6	365	石核	頁岩 (黄褐色)	完形	5.9	2.5	5.7	29.5	遺跡近傍で採集可能な垂円礫が素材。
	V	M-16	36	6	366	細石刃	玉髓 (黒)	上部欠	0.9	0.4	0.1	※	5g未満のため重量計測不可。
	V	Л-16	36	6	367	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	ほぼ完形 (上端欠)	3.6	1.4	0.5	2.3	表面激しく摩耗。先端A(3mm)。
	V	M-16	36	6	368	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山 岩	下半欠	3.0	1.5	0.7	4.9	折れ面C-⑨スナップ。
87	V	M-12	36	6	369	搔器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.1	3.8	1.2	23.0	素材剥片横位に使用。裏面にも二次加工。
	V	M-12	36	6	370	両面加工石器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.8	3.3	1.0	15.5	両面加工尖頭器様の加工が施されているが、尖頭部が作出されていない。
	V	H-12	36	6	371	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	1.9	0.8	0.3	※	表面激しく摩耗。稜線などの読み取り不可。超小形の木葉形。5g未満のため重量計測不可。
	V	H-12	36	6	372	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	2.2	1.0	0.3	0.7	表面激しく摩耗。稜線などの読み取り不可。超小形の木葉形。
	V	O-15	3r	7	375	微細剥離痕のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	上, 下部欠	2.1	1.4	0.3	1.2	石刃様の縦長剥片。
	V	O-16	3r	7	378	細石刃	玉髓 (暗灰色)	上部欠	2.2	0.7	0.3	0.5	側縁に微細剥離痕。
104	V	H-15	3r	7	379	局部磨製 石斧	緑灰色堆積岩 (緻密)	完形	8.4	3.6	1.6	67.7	刃部平面直線的、両刃、刃部の正面直線的。研磨前の剥離に加え、研磨後にも剥離が施されている。
	V	П-17	3r	7	380	細石刃	碧玉 (赤褐色)	完形	2.4	0.8	0.3	0.6	遺跡近傍で採集可能な垂円礫と同じ石質。
	V	O-16	3r	7	381	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	7.1	2.4	0.8	12.3	細身。
	V	H-15	3r	7	382	削器	無斑晶質安山 岩	ほぼ完形 (下端, 左端欠)	3.6	5.3	0.7	14.9	ポイントフレイクが素材。切り打面、リップ発達。
	V	H-13	3r	7	383	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.8	4.1	1.5	32.3	表面に平坦な節理面残す。
	V	H-15	3r	7	384	細石刃	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	1.4	0.7	0.2	※	5g未満のため重量計測不可。
	V	H-15	3r	7	385	細石刃	緑灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	1.6	0.7	0.2	※	5g未満のため重量計測不可。
	V	H-15	3Г	7	386	微細剥離痕のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	3.9	2.9	0.6	6.2	表面摩耗。
	V	M-15	3Г	7	387	削器	碧玉 (暗赤褐色)	上部欠	2.7	1.1	0.2	0.8	押圧剥離使用か?
	V	O-19	3Г	7	388	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	ほぼ完形 (上下端欠)	3.6	1.8	0.4	3.0	小形木葉形。
	V	H-15	3Г	7	390	磨石?	安山岩	完形	13.2	13.1	2.8	—	200gより重い遺物のため重量計測不可。扁平な円礫。研磨、敲打痕などの痕跡は明瞭ではない。
	V	Л-14	3Г	7	391	尖頭器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	4.7	3.3	0.7	11.6	素材剥片縦位に使用。
	V	O-13	3Г	7	392	尖頭器 (半両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	4.0	1.8	0.7	5.0	不整形。
43	V	H-13	3Г	7	393	尖頭器 (両面加工)	玉髓 (暗赤灰色)	ほぼ完形 (上端欠)	1.6	0.9	0.3	0.5	超小形の木葉形。
	V	П-12	3Г	8	398	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.8	1.6	0.7	2.6	折れ面及び尖頭部からの彫器状剥離痕あり。彫器への変形あるいは衝撃剥離痕の可能性あり。折れ面C-⑩。

Table.3-3-12 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-12 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Пласс	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	V	O-12	36	8	399	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	3.9	1.8	0.5	3.2	小形木葉形。両側縁がやや張り出し、菱形に近い平面形となっている。
	V	O-11	36	8	400	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	3.9	1.7	0.5	4.3	表面左側縁、裏面左側縁に二次加工。上下の折れはC-①スナップ。素材剥片縦位に使用。
	V	O-11	36	8	401	尖頭器 (両面加工)	流紋岩?	上部欠	3.0	1.4	0.4	1.9	押圧剥離使用。小形木葉形。
	V	O-12	3Г	8	402	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	下半欠	1.6	2.3	0.6	2.4	素材剥片縦位に使用。
	V	O-12	36	8	403	尖頭器 (両面加工)	チャート (暗灰色)	上部下部欠	2.3	1.6	0.5	2.1	押圧剥離使用。上下の折れC-①スナップ(上部の折れから発生したように見える剥離は彫器状剥離ではなく側縁から発生している)。
	V	O-12	36	8	404	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部下部欠	3.4	5.2	1.2	35.4	上下の折れはC-①スナップ、折れの発生には節理なども影響していると考えられる。
	V	O-12	36	8	405	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	6.1	3.6	2.0	47.8	木葉形。表面激しく摩耗。厚み残し不整形。
	V	O-14	36	8	406	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	4.5	2.9	1.0	13.8	木葉形。折れ面C-①スナップ。
	V	П-14	3Г	8	407	石核	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.3	3.3	2.1	21.6	ブロック状。
	V	O-15	36	8	408	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下半欠	4.8	4.0	1.4	21.4	折れ面C-②、ただし副次的剥離痕は再加工の痕跡と考えられる。木葉形。
	V	O-15	36	8	409	石核	玉髓 (赤褐色)	完形	2.2	3.3	1.9	17.9	遺跡近傍で採集可能な亜円礫が素材。
	V	O-15	36	8	410	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.3	2.1	0.4	2.1	折れ面はC-①スナップ。
	V	M-16	3Г	8	411	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	3.9	2.5	1.0	9.2	比較的細身の木葉形。折れ面はC-①スナップ。
	V	Л-17	3Г	8	414	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山岩	上部下半欠	3.2	2.2	0.8	6.4	細身、折れ面は上部C-①ヒンジ、下部C-①スナップ。
	V	П-19	3Г	8	415	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	左上半欠	4.3	3.8	0.8	6.4	器体が斜めに分断されるように割れており、その破片。C-①スナップ。木葉形。
	V	П-19	3Г	8	416	石核	チャート (暗灰色)	完形	2.3	3.9	1.6	12.7	小形で不定形。
	V	M-17	3Г	8	417	細石刃	珩質頁岩 (暗灰色)	上部欠	1.2	0.6	0.1	※	5g未満のため重量計測不可。
60	V	П-15	36	8	419	削片	無斑晶質安山岩	ほぼ完形 (下端欠)	3.0	0.7	0.7	1.2	半両面加工の石器から剥離されている。
	V	O-16	3Г	8	420	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.7	1.6	0.3	1.1	小形木葉形。素材剥片縦位に使用。
	V	O-16	КРИОГН	9	423	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	4.6	3.6	1.4	17.3	表面やや摩耗。平坦な節理面が素材剥片の打面。素材剥片縦位に使用。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-12	КРИОГН	9	424	削器	頁岩 (黄褐色)	上部下部欠	2.6	2.7	0.3	2.8	側縁部の破片。平坦な礫面を大きく残す。石質としては遺跡近傍で採集可能な亜円礫と同質。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-12	КРИОГН	9	425	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	下半欠	2.0	2.2	0.5	1.9	木葉形?折れ面はC-①スナップ。素材剥片縦位に使用。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-12	КРИОГН	9	426	尖頭器 (周辺加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.0	1.1	0.2	0.5	小形木葉形。素材剥片縦位に使用。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-13	КРИОГН	9	427	尖頭器 (両面加工)	チャート (暗灰色)	下半欠	4.2	2.5	0.7	6.3	細身。折れ面C-①ステップ。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-14	КРИОГН	9	428	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	3.5	3.0	0.6	6.0	素材剥片縦位に使用。リップ発達。氷楔(КРИОГН)からの出土。
49	V	O-14	КРИОГН	9	429	有茎尖頭器	暗灰色堆積岩 (粗粒)	上部欠	3.8	1.7	0.5	3.2	表面激しく摩耗。稜線などの読み取り不可。上部A?(6mm)。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	П-19	КРИОГН	9	430	細石刃	頁岩 (黄褐色)	下部欠	1.9	0.5	0.2	※	重量計測不可。5g未満のため重量計測不可。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-15	КРИОГН	9	431	石核	玉髓 (暗赤褐色)	完形	2.7	3.6	3.7	35.4	遺跡近傍で採集可能な亜円礫。氷楔(КРИОГН)からの出土。

Table.3-3-13 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-13 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Плост	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
	V	O-15	КРИОГН	9	433	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	下部欠	4.8	5.3	0.9	22.6	素材剥片縦位に使用。ポイントフレイクが素材。切り打面、リップ発達、背面が多方向からの剥離によって構成されている。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-15	КРИОГН	9	434	二次加工のある剥片	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	3.1	2.8	0.6	6.0	素材剥片縦位に使用。氷楔(КРИОГН)からの出土。
109	V	H-15	КРИОГН	9	435	磨製石斧	緑灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.9	5.3	1.9	85.5	剥離後に研磨、ただし研磨後に生じた剥離痕も多数ある。裏面刃部側は、再加工と思われる側縁方向からの大きな剥離によって器体が大きく損なわれている。
	V	H-16	КРИОГН	9	436	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	6.3	3.0	0.9	14.0	木葉形。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	П-18	КРИОГН	9	437	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上半欠	2.0	1.7	0.7	1.7	折れ面C-①スナップ。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	П-18	КРИОГН	9	438	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上部欠	3.8	2.0	0.9	7.2	細身。折れ面C-①スナップ。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-17	КРИОГН	9	439	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.0	2.0	0.7	5.5	表面やや摩耗。二次加工により尖頭部作出されている。周辺加工尖頭器の未成品や石錐の可能性も。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-18	КРИОГН	9	440	削器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	2.8	2.6	0.5	4.1	円形の平面形。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	O-12	КРИОГН	9	441	尖頭器 (両面加工)	碧玉 (灰褐色)	完形	5.4	2.3	0.9	10.7	比較的細身。氷楔(КРИОГН)からの出土。
	V	П-20	КРИОГН	10	446	尖頭器 (両面加工)	暗灰色堆積岩 (緻密)	上, 下部欠	4.8	3.0	1.2	17.0	木葉形。折れ面C-①スナップ。氷楔(КРИОГН)からの出土。
107	V	O-17	КРИОГН	10	447	局部磨製石斧	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	8.3	4.3	1.7	68.7	断面表裏両凸レンズ状。表面に研磨面(剥離面切る)裏面には研磨面なし。裏面刃部に表面の研磨面切る二次加工が施され刃部正面観は丸ノミ状となっている。片刃。基部に向かって収斂していく平面形。446と非常に似た形態。氷楔(КРИОГН)からの出土。
106	V	O-15	КРИОГН	10	448	局部磨製石斧	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	8.7	4.2	2.0	80.7	断面表裏両凸レンズ状。表裏に研磨面(剥離面切る)。裏面刃部を中心に研磨面切る二次加工が施され刃部正面観が丸ノミ状となっている。片刃。基部に向かって収斂していく平面形。447と非常に似た形態。石材はこちらのほうがよりホルンフェルス化している。
	V	O-16	КРИОГН	10	449	尖頭器 (両面加工)	無斑晶質安山岩	完形	5.4	3.7	1.2	18.1	中～小形の木葉形尖頭器の未成品。円磨をしていない礫面を残す。素材剥片横位に使用。
	V	H-15	КРИОГН	10	450	尖頭器 (両面加工)	チャート (暗灰色)	完形	4.8	2.5	1.0	11.1	涙滴形の平面形。氷楔(КРИОГН)からの出土。
4	VI	C-21	3a	1	451	有茎石錐 (未成品)	玉髓 (橙褐色)	ほぼ完形 (下端欠)	3.6	1.5	0.6	3.9	押圧使用。基部欠損(C-①スナップ)、尖頭部未作出、左右非対称の平面形。未成品と思われる。石材、形態からオンボフカより新しい時期の遺物と考えられる。1999年発掘資料。
	VI	P-21	3a	1	452	敲石	安山岩	完形	11.3	6.5	2.2	—	扁平な円礫が素材。端部に敲打痕および端部から発生した剥離痕あり。200gより重い遺物のため重量計測不可。1999年発掘資料。オンボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-23	3a	1	458	敲石	ホルンフェルス	完形	11.8	4.3	1.6	123.0	細長く扁平な円礫。両端部に敲打痕と剥離痕。1999年発掘資料。
	VI	Y-22	3a	1	459	打製石斧	ホルンフェルス	完形	9.8	5.2	2.0	132.2	打製石斧の未成品。扁平な垂角礫が素材。素材の礫の側縁および上下両端に剥離。縄文のいわゆる打斧に似た粗雑な二次加工で作出された形態。短冊形。表面摩耗。1999年発掘資料。オンボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	460	二次加工のある礫	礫岩	完形	10.0	5.1	2.0	131.3	c.k.1出土。砂礫が固まった堆積岩。わずかに剥離痕を有する。性格不明。1999年発掘資料。オンボフカより新しい時期の遺物と思われる。

Table.3-3-14 (続き) 出土石器属性表

Table.3-3-14 (continued) Attributes of stone tools from the Goncharka 1 site

Figure No.	Sector	Grid	Layer	Пласс	ID	Type of artifact	Raw material	Breakage	Length (cm)	Width (cm)	Thickness (cm)	Weight (g)	Memo
9	VI	C-22	3a	1	461	打製石斧 未成品	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	5.5	10.2	2.2	187.1	c.k.1出土。扁平な亜円礫が素材。礫皮は褐色、内部は暗灰色。片側の長辺に対して二次加工が施されている。石斧未成品の可能性あり。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	462	礫器	暗灰色堆積岩 (緻密)	完形	10.8	4.4	1.4	103.0	c.k.1出土。細長く扁平な円礫が素材。比較的薄い剥離が連続し施されている。尖頭器の未成品か？石質はオシボフカの両面加工石器にも見られる暗灰色で比較的緻密な石質。1999年発掘資料。出土位置、層位からオシボフカより新しい時期の可能性あり。
6	VI	C-22	3a	1	463	磨製石斧 未成品	ホルンフェルス	完形	9.7	3.0	1.3	65.4	c.k.1出土。上下両端に平坦面があり、刃部未作出。全面研磨。上下両端から施された二次加工有。刃部研磨前の整形の痕跡と思われる。未成品。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
5	VI	C-22	3a	1	464	磨製石斧 未成品	ホルンフェルス	完形	10.2	3.9	1.4	103.3	c.k.1出土。上下両端に平坦面があり、刃部未作出。全面研磨。上下両端から施された二次加工有。刃部研磨前の整形の痕跡と思われる。未成品。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
10	VI	C-22	3a	1	465	打製石斧 未成品	ホルンフェルス	完形	8.5	4.9	1.6	101.2	c.k.1出土。扁平な円礫が素材。素材の礫面を大きく残す。未成品。99年調査出土とされている。
	VI	C-22	3a	1	466	打製石斧 未成品	暗灰色堆積岩 (やや粗粒)	完形	9.3	4.5	2.0	96.3	c.k.1出土。扁平な亜円礫が素材。礫皮は褐色、内部は暗灰色。両側縁に対して二次加工。刃部未作出。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	467	二次加工のある礫	砂岩	下部欠	9.4	6.5	0.9	84.4	c.k.1出土。扁平な礫の両側縁を潰すような二次加工。石斧などの未成品の可能性もあり。扁平に薄く削がれる性質の石材。1999年発掘資料。470と折れ面で接合。接合状態の長さ16.7cm幅6.8cm厚さ1.0cm、重さ159.7g。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	468	敲石？	ホルンフェルス	完形	9.5	3.0	2.4	77.1	c.k.1出土。細長い円礫。痕跡は顕著ではないが形態は棒状の敲石のようである。1999年発掘資料。
	VI	C-22	3a	1	469	敲石？	暗灰色堆積岩 (粗粒)	完形	11.0	4.2	2.1	91.4	c.k.1出土。亜角礫。二次加工や敲打痕などなし。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	470	二次加工のある礫	砂岩	上部欠	7.8	6.8	1.0	75.3	c.k.1出土。扁平な礫の両側縁を潰すような二次加工。石斧などの未成品の可能性もあり。扁平に薄く削がれる性質の石材。1999年発掘資料。467と折れ面で接合。接合状態の長さ16.7cm幅6.8cm厚さ1.0cm、重さ159.7g。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	471	敲石？	ホルンフェルス	完形	8.7	3.6	1.8	76.4	c.k.1出土。下端から剥離生じている。細長く扁平な円礫が素材。1999年発掘資料。敲打痕などの痕跡は不明瞭。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	472	敲石？	砂岩？	完形	10.4	2.8	1.9	73.3	c.k.1出土。棒状の礫。敲打痕などの痕跡は観察できない。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	473	敲石？	砂岩？	完形	9.4	3.6	1.5	68.4	c.k.1出土。細長く扁平な円礫。敲打痕などの痕跡は観察できない。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。
	VI	C-22	3a	1	474	敲石？	砂岩？	上部欠	8.0	3.4	2.0	70.3	c.k.1出土。棒状の円礫。敲打痕などの痕跡は観察できない。483と折れ面で接合。接合状態で長さ11.0cm幅3.4cm厚さ2.0cm重さ92.0g。1999年発掘資料。オシボフカより新しい時期の遺物と思われる。